

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会

2010年度
事業報告書
会計報告書



ネパール・チョウジャリの人々
(細井護氏撮影)

JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE
(JOCS)

公益社団法人 **日本キリスト教海外医療協力会**

東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-33
TEL : 03-3208-2416 FAX : 03-3232-6922
関西事務局 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30
大阪聖パウロ教会 3階
TEL : 06-6359-7277 FAX : 06-6359-7278
URL <http://www.jocs.or.jp>

目次

1. 今年度の歩み	1
2. 海外諸活動	6
2-1 ネパール	6
2-1-1 楢戸健次郎ワーカー	6
2-1-2 細井さおりワーカー	7
2-2 バングラデシュ	8
2-2-1 宮川真一ワーカー	8
2-2-2 山内章子ワーカー	9
2-2-3 岩本直美ワーカー	11
2-2-4 乾真理子短期ワーカー	12
2-3 タンザニア	12
2-3-1 清水範子ワーカー	12
2-3-2 倉辻忠俊ワーカー	13
2-3-3 宮尾陽一短期ワーカー	14
2-4 パキスタン	14
2-4-1 青木盛ワーカー	14
2-5 カンボジア	16
2-5-1 諏訪恵子ワーカー	16
2-6 研修生・奨学金支援	17
2-7 災害救援復興支援	24
2-7-1 バングラデシュ	24
2-7-2 バングラデシュ	24
2-8 協働プロジェクト(プロジェクト・りとる)	24
3. 国内諸活動	24
3-1 国内活動全般	24
3-2 ワーカー育成プログラム	27
3-3 東日本大震災被災者支援	29
3-4 広報	30
3-5 募金	32
3-6 使用済み切手運動	32
3-7 関西事務局バザー	33
3-8 講師派遣プログラム	33
3-9 事務局見学受入	34
3-10 50周年記念事業	34
3-11 ネットワーク活動	35
4. 運営会議	35
4-1 第49回社員定期総会	35
4-2 臨時社員総会	36
4-3 理事会	36
4-4 公益社団法人への移行手続き	37
4-5 委員会	38
4-6 評価	42
5. 事務局	43
6. 一般会員・社員会員の現状報告	45
7. 会計報告	46
貸借対照表	46
貸借対照表内訳表	47
正味財産増減計算書	48
正味財産増減計算書内訳表	50
財務諸表に対する注記	52
附属明細書	54
財産目録	55
公益目的事業会計 収支計算書	57
収益事業会計 収支計算書	60

法人会計 収支計算書	61
収支計算書総括表	63
収支計算書に対する注記	64
監査報告書	65
付録 2010年度出版物に掲載された記事の一部	67

1. 今年度の歩み

＜常務理事 畑野研太郎＞

JOCS が 2005 年度に定めた「今後 5 年間（2006 年～2010 年）の方向性」に沿った活動は、今年度その最終年を迎えました。「今後 5 年間の方向性」とは、次のとおりです。

「平和を実現するものとしての JOCS」JOCS は積極的に平和を実現するもの、赦しと和解を来たらせるもの、隔ての壁を取り除くものでありたい。

「JOCS の活動の今後 5 年間の焦点」今後 5 年間は特に女性と子ども、障がい者、少数民族、HIV 感染者を対象とした活動に焦点を当てる。

「弱くされた人と共に生きることを喜びとするワーカー」ワーカーの人選においては、何よりも弱くされた人と共に生きることを喜びとする賜物を大切にします。

今年度も、この 5 年間の方向性にそって「共に生きる」世界の実現をめざし、皆様と共により一層努めてまいりました。50 年にわたって生まれ守られ活動が続けてきた JOCS は、新法人制度改革のもとで厳格化された基準を満たす公益法人として、2011 年 3 月に認定されました。51 年目を迎える 2011 年 4 月からは、新たに「公益社団法人」としての歩みを開始します。会員¹の皆様、支援者の皆様、ボランティアの皆様のあたたかいご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

2010 年度の特記すべき活動を以下に記します。

（1）海外諸活動

① ワーカー派遣：

長期派遣ワーカーとして働いたのは 8 名のワーカーであった。

ネパールの細井さおりワーカーは、従来は受刑者である親と共に刑務所の中で暮らしていた子どもたちに、社会で共同生活をおこなう機会を提供している団体の運営する子どもたちのホーム 4 カ所を巡回し、子どもたちの心身の健康を支えた。

バングラデシュでは、岩本直美ワーカーがラルシュ・マイメンシン・コミュニティで、知的ハンディを持った人々と共に生活しながら、後継者を養成し、またコミュニティの組織・運営の改善にも尽力した。宮川眞一ワーカーは、チャンドラゴーナ・キリスト教病院において、増加した重症の入院患者の診療と、病棟での看護師・看護学生の教育に努めた。

今年度は、5 名の長期派遣ワーカーが年度中にそれぞれの任期を完了した。

ネパールの植戸健次郎ワーカーは、西部のチョウジャリ病院で公衆衛生の向上に協力し、8 月に帰国した（その後、再度短期ワーカーとして 3 ヶ月間赴任）。

バングラデシュで山内章子ワーカーが広く行ってきた理学療法指導は、一部のプログラ

¹会員：本報告書の中で特にことわりのない場合は、社員会員及び一般会員の皆様を指します。

ムをスタッフが自立して運営できるまでになった。山内ワーカーは12月に帰国し、現在は報告会と第二期派遣に向け準備中である。

タンザニアの清水範子ワーカーは、母子保健向上を目指して、妊産婦健診・栄養指導・現地スタッフ向けの助産セミナー運営などと同時に、派遣先団体の保健プログラムの円滑な運営システムの構築に尽力した。11月に帰国の後、日本各地で活動報告会を行った。後任の倉辻忠俊ワーカーは、ダルエスサラームでの語学研修を終え、2011年3月に任地のタボラ州に赴任した。その後、ンダラ病院での臨床研修を受け、2011年度からの母子・小児の医療改善活動に備えた。

パキスタンの青木盛ワーカーは、もっとも弱く小さな命、途上国の重症新生児に寄り添い、救命に力を注ぐとともにスタッフ訓練に励んできた。9月に第一期を完了して帰国し、各地で活動報告会を行った。

カンボジアの諏訪恵子ワーカーは、暴力の被害を受けて心身ともに傷ついた女性を保護し自立を支援するシェルターで、カンボジア人スタッフと一緒に働きながら、シェルター責任者となるカンボジア人スタッフはじめ現地スタッフを養成し、任期を満了して3月に帰国した。

短期ワーカーの派遣は2名であった。乾真理子ワーカーは、バングラデシュでもっとも草の根に近い手作りのクリニックに年間2度合計6カ月間派遣され、栄養失調児や糖尿病患者の治療に取り組んだ。宮尾陽一ワーカーは、今年度の派遣で4回目のタンザニアでの活動であり、多くの人々・患者たちが彼を待っているンダラ病院を中心として様々な外科手術を行った。

② 奨学金支援：

アジア・アフリカの保健医療従事者育成を目的とした奨学金は、今年度は、新規受給者・継続者を合わせ、インド、インドネシア、ウガンダ、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、タンザニアの90名が勉強するのを支援した。選考の際は、研修修了後は現地に留まり、草の根レベルでの保健医療向上に取り組む志しをもつ人材を選ぶように努め、アジア・アフリカの保健医療従事者が自分たちの力で地域の人々の健康を守れるようになることを目標としている。JOCSの奨学金で学んだ人が、所属団体に戻って中堅スタッフやリーダーとなる例も多く、着実に奨学金支援の効果が表れていると言えよう。

③ 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）（Project “LITTLE” = “Living together with the people”）

「プロジェクト・りとる」とは、アジア・アフリカの人々や現地NGOが主体となって行う活動に対し、JOCSが資金協力を行うという新しく始めた事業形態で、今後JOCSの活動の一つの柱として育っていくことを望み祈っている。今年度より、バングラデシュのNGOと協力して「学校保健教育プロジェクト」を開始し、現地での小学生の健康診断や保健教育などを実施した。

(2) 国内諸活動

2010年度、JOCSは皆様のご支援により創立50周年を迎えることができた。これまでの50年を振り返って感謝し、また今後に向けての私たちの歩みをより確かなものとすることを望んで、バングラデシュのテゼ共同体のブラザー・フランクを迎えて、感謝記念礼拝やリトリート（黙想会）を開催した。また、各地区JOCSでコンサートなどの50周年記念イベントが開催され、全国各地の支援者の方々と50周年の喜びと感謝を分かち合うことができた。また、50周年を記念して、JOCSの活動を紹介する2つのビデオを作成し、ホームページから見られるようにした。「カシ ナマ ジュパン」は、インドネシアの元奨学生が地域医療に取り組む姿を紹介している。「心をひらいて」は、バングラデシュの知的・身体的障がい者と共に生きる若者たちと、彼らを支えるJOCSワーカーの活動を紹介している。ぜひ多くの支援者の方々にご覧いただきたい。

50周年を記念・感謝しての募金と会員増強のための呼びかけも行き、新しい会員が加わってくださったことを感謝したい。

使用済み切手運動に関しては、「切手キャラバン」を開催し、北関東・東北の4カ所を訪問した。

今年度も、海外保健医療協力セミナーと勉強会を開催し、保健医療協力に関心を持つ方々との新しい出会いがあった。こうした努力を続ける中から、将来JOCSのワーカーにふさわしい人材が与えられるよう願っている。

3. 運営会議、事務局

4月に開催した第49回社員総会では、前年度報告と今年度計画に加えて、新公益社団法人への移行認定申請や新役員の選任結果も承認された。

定例理事会、常任理事会、委員会では、「今後5年間の方向性」を踏まえて活動内容を討議してきた。新しく公益社団法人として認定を受けるための手続き、財政、会員増強のための取り組みなどについて、真剣な議論が交わされた。

今年度もまた、多くのボランティアの皆さんが私たちの活動を支えてくださいました。

この一年、私たちの活動に連なり、様々な形でご協力を賜ったお一人おひとりに、心より感謝申し上げます。

《2010年度の主な動き》

4月

- 2日 ネパール・アナンダバン病院カンデル院長来会、勉強会・懇親会（東京事務局）
- 10日 京都JOCSチャリティウォークソン（鴨川河川敷）
- 11日 四国高知JOCS主催 JOCS50周年記念のつどい（日本基督教団高知教会）
- 13日－24日 植松功氏 山内章子ワーカーの活動レビューのためバングラデシュ出張
- 23日－25日 浅草スタンプショウに出店（産業貿易センター台東館）

- 26日 乾眞理子短期ワーカー バングラデシュに赴任
 29日 第49回社員定期総会（日本キリスト教会館）
- 5月
- 8日 関西事務局バザー（大阪聖パウロ教会）
 22日 芦屋 JOCS30周年／JOCS50周年記念のつどい（芦屋ルナホール）
 29日－30日 ボランティアテックミーティング（東京事務局）
- 6月
- 2日－11日 川口恭子海外担当主事 バングラデシュ出張
 5日 神戸 JOCS 主催 JOCS50周年のつどい（神戸栄光教会）
 13日 樋戸健次郎ワーカー ネパールに赴任
 19日－20日 海外保健医療協力セミナー（東京スポーツ文化館）
- 7月
- 23日 京都 JOCS50周年チャリティコンサート（京都コンサートホール）
 25日 乾眞理子短期ワーカー バングラデシュより帰国
 31日 スタディツアー事前勉強会（東京事務局）
 31日－8月1日 ボランティアテックミーティング（東京事務局）
- 8月
- 2日－12日 大宮直明氏、八田早恵子氏 ビデオ制作のためインドネシア訪問
 7日－22日 石本馨氏 山内章子ワーカーへの助言のためバングラデシュ出張
 18日－22日 切手キャラバン（桐生・足利・会津若松・仙台）
 22日－26日 原島博氏 諏訪恵子ワーカーの活動レビューのためカンボジア出張
 27日－9月5日 南インド・スタディツアー
 30日 樋戸健次郎ワーカー ネパールより帰国
- 9月
- 11日－10月10日 テゼ共同体ブラザー・フランク来日
 13日 乾眞理子短期ワーカー バングラデシュに赴任
 15日 ブラザー・フランクの勉強会・交流会（東京事務局）
 18日－26日 佐藤光理事 清水範子ワーカーの活動レビューのためタンザニア出張
 20日 青木盛ワーカー 第一期活動終了、パキスタンより帰国
 23日 50周年記念感謝礼拝（ニコラバレ修道院聖堂、大阪聖パウロ教会）
 25日 仙台 JOCS 主催 JOCS50周年記念のつどい（仙台青年学生センター）
 25日－26日 高知スタンプショウ（高知イオン）
 30日 濱野佐知子職員退職
- 10月
- 1日 大久保奈緒職員入局
 1日－10日 大宮直明氏、志賀圭氏 ビデオ制作のためバングラデシュ訪問
 2日－3日 グローバルフェスタジャパンに出展（日比谷公園）
 9日 50周年記念リトリート（池袋聖公会）

- 16日－11月13日 倉辻忠俊氏 タンザニア出張
- 22日 海外保健医療勉強会（日本キリスト教会館）
- 26日－11月7日 川口恭子海外担当主事 バングラデシュ出張
- 11月
- 6日 大阪 JOCS 主催 JOCS50 周年記念のつどい（日本基督教団島之内教会）
- 16日 樋戸健次郎短期ワーカー ネパールに赴任
- 23日 キリスト教学校教育同盟 100 周年式典出展
- 29日 清水範子ワーカー 第一期活動終了、タンザニアより帰国
- 12月
- 10日 AHI 主催・JOCS 協力 AHI30 周年記念東京講演会（東京事務局）
- 11日 乾眞理子短期ワーカー バングラデシュより帰国
- 11日 足利 JOCS・足利 YMCA 共催 JOCS50 周年記念のつどい（足利市民クリスマス）
（足利市民会館）
- 13日－1月13日 岩本直美ワーカー 一時帰国
- 17日 山内章子ワーカー 第一期活動終了、バングラデシュより帰国
- 17日 関西ボランティアクリスマス会（関西事務局）
- 25日－31日 ボランティアフォトグラフィ北嶋陽子氏 カンボジア訪問
- 1月
- 16日－19日 名取智子職員 カンボジア出張
- 21日 海外保健医療勉強会（日本キリスト教会館）
- 23日 倉辻忠俊シニアワーカー派遣祝福式（大久保バプテスト教会）
- 25日 倉辻忠俊シニアワーカー タンザニアに赴任
- 28日 東京事務局ボランティア新年会（東京事務局）
- 31日 東西合同スタッフミーティング（東京事務局）
- 2月
- 4日－17日 川口恭子海外担当主事、高橋淳子職員（5日－15日）バングラデシュ出張
- 5日－6日 ワン・ワールドフェスティバルに出展（大阪国際交流センター）
- 12日－18日 高梨愛子常任理事 細井さおりワーカーの活動レビューのためネパール出張
- 20日 フィールド勉強会（横浜寿地区）
- 25日－27日 国際協力切手まつり in 山口
- 27日 樋戸健次郎短期ワーカー ネパールより帰国
- 28日 清水範子ワーカー退職
- 3月
- 16日 諏訪恵子ワーカー 第二期活動終了、カンボジアより帰国
- 13日 関西 JOCS 2010 50 周年記念シンポジウム（ACTA 西宮）
- 13日 宮尾陽一短期ワーカー タンザニアに赴任

2. 海外諸活動

[2-1] ネパール

[2-1-1] 榎戸健次郎シニア・短期ワーカー (医師)

〈シニア・短期ワーカー 榎戸健次郎〉

派遣先：HDCS (Human Development and Community Services)

8月末でシニアワーカー2年の任期が終了し、12月、2011年1月、2月の3ヵ月間、短期ワーカーとして今までの活動を継続した。

(1) HDCS での活動

- ① 引き続き HDCS が運営するルクム郡のチョウジャリ病院を手伝う。4月、やっと専従の公衆衛生担当職員が着任し、病院の予防活動が軌道に乗ってきた。病院での妊婦健診、乳児健診、予防注射時の指導、婦人ボランティアの教育などに加え、地域に出かけて行つての学校健診、村人たちへの予防教育も開始した。また今年病院待合室にテレビを設置し、健康教育、予防活動の映像を流し始めた。
- ② チョウジャリ病院、ダネンドラ病院の医師3人が法的にも帝王切開を含む産科手術が出来るよう、国が行う3ヵ月の産科研修を受けたが、JOCSはその受講料を援助し、応援した。

(2) JOCS 独自の活動

- ① 5月から6月まで約2ヵ月間、JOCSとしての報告会を全国で40回行う。その中でいただいた提案が2つ。中高生ワークキャンプの再開の要望と、団体会員(学校、教会など)の掘り起こし。今後積極的に検討すべき課題だと思う。
- ② 6月と12月、ネパールからのJOCS奨学生申請の取りまとめ作業を行う。今年度は合わせて26名の申請があった。



チョウジャリ病院の職員と共に

(3) その他

- ① 知人の島根大学整形外科助教授・森隆治先生夫妻が、チョウジャリに合わせて3ヵ月滞在し、多くの手術を手がけ、住民から「カトマンズに行かなくても、ここで難しい手術が受けられる」と大いに感謝された。
- ② カトマンズで2010年12月、2年ぶりにネパール家庭医学会総会が南アジア家庭医連合と共催で行われた。私を含め日本人医師5人が参加、3人が発表。以前JOCSの短期ワーカーをお願いし、現在も年数ヵ月ネパールで診療活動を続けている石田龍吉先生が、自分の足で観察したネパールの僻地の整形患者の実態を発表し、反響を呼んだ。
- ③ 今年度も多くの診療応援、来客があった。衣笠病院チーム。岩村史子さん・マヤさん一行。東京基督神学校小沢謙神学生1ヵ月研修。横尾美千代元長崎大学ウイルス

学研究者、チョウジャリで下痢患者の調査1ヵ月。例年どおり山本貞子元京大病院看護師のチョウジャリでの応援数ヵ月。その他医学生、看護学生、看護師の訪問も多数あり、賑やかな1年となる。

[2-1-2] 細井さおりワーカー（看護師）

＜ワーカー 細井さおり＞

派遣先：PFN（Prison Fellowship Nepal）

（1） PFN「平和を愛する子どもの家」での活動

4つのホームで子どもたちと共に過ごし、スタッフと共同して、子どもたちの健康管理や心理的サポート、生活一般の世話をおこなった。

① ポカラ：女の子11人。5歳～17歳。

- ・ 健康管理、疾病時の世話、病院への付き添い
- ・ 休日のレクリエーション（集団あそび、絵画、折り紙、編み物、手芸、遠足）
- ・ 宿題や家庭学習の促進、学習教材の提供
- ・ 衣類や文房具などの管理、環境改善
- ・ スタッフの休暇補償（代わりに宿直）

② ゴタタール：男の子11人、女の子3人。5歳～17歳。

- ・ カウンセリング
- ・ 休日のレクリエーション（集団あそび、工作、絵画、スポーツ、折り紙、映画鑑賞）
- ・ 健康管理、疾病時の世話、病院への付き添い
- ・ スタッフと共同し、子どもたちの個性にあった指導の推進

③ ラジンパット：男の子1人、女の子5人。6歳～10歳。

- ・ 健康管理、疾病時の世話
- ・ 休日のレクリエーション（絵画、折り紙、集団あそび、スポーツ、お菓子作り）
- ・ 生活介助（洗濯、掃除、整理整頓、衣服の管理、シャワー、爪切り）

④ チトワン：女の子8人。6歳～15歳。

- ・ 子どもたちとの交流
- ・ 子どもたち、スタッフの健康管理

（2） 刑務所訪問

ナカー、ディリバザール、ポカラ、ドゥリケル、ジャジャルコットの刑務所訪問（受刑者・刑務官からの聞き取り、刑務所内で行われている読み書きプログラムや社会復帰トレーニングの見学、図書館プロジェクトのフォローアップ）。



ホームの子どもたちと一緒に

（3） PFNでのその他の活動

PFN主催のディストリクトボランティアコーディネーター会議（チトワンにて2泊3

日)への参加(この会議ではネパール全土よりボランティアの方々が集まり、刑務所訪問をする上での注意点や問題解決の方法などを学び、それぞれの経験を分かち合う)。

[2-2] バングラデシュ

[2-2-1] 宮川真一ワーカー (医師)

〈ワーカー 宮川真一〉

派遣先: CHC (Christian Hospital Chandraghona)

政権交代後も、一般庶民の生活に大きな改善はない。BRICs (ブラジル、ロシア、インド、中国)に次ぐネクスト 11 に位置付けられた当国だが、物価の上昇は格差を生み、現金収入の少ない人たちの生活は、より圧迫されつつある。2009年9月よりCHCに二期目再赴任後、1年目が終了。仕事は医師不足の影響で、同所に於ける病院業務が主となった。2010年9月より自身の疾患治療・療養、また取得ビザ延長に時間を要し、当地での活動が中断された。

(1) 病院・診療業務

- ① 病棟業務: 医師不足のため、ほぼ単独回診。帰宅前個人回診継続。複雑症例のコンサルテーション及び担当。依頼を受けたエコー検査施行。重症入院数が増え、夜間呼び出しが増加した。ペインクリニックを導入・施行した。
- ② 外来業務: メタボリッククリニック (専門外来) を継続。一般外来を含め週2回ほど担当。導入外来システムにより、一定の効率化が行えた。ナース・学生へ、専門外来分野の教育は進んだが、医師への教育の余裕はなかった。
- ③ 医療機器整備: 導入済救急用、および専門外来用機器のメンテナンスを終了し、使用方法の再教育を行った。管理システムの担当看護師責任制は徹底された。
- ④ 救急業務: 蛇咬症について、地元医大で研修を受け、簡易検査システムを作った。



回診中の宮川ワーカー

(2) 地域保健医療 (Community Health Project : CHP)

継続分野の詳細は前年度報告書を参照。新2 Union (行政地区)への展開を開始。私は、呪術師のセミナーに参加した以外は、進展状況の情報収集のみ。スタッフへの負担は増加。

- ① Basic Medical Worker (BMW): 各地区での通常業務・月1回の月例会などを継続。RDT (マラリア迅速診断キット)を使った初期診断・投薬などを継続。
- ② Mobile Team: Mobile Clinic (巡回医療)での定期診療 (9~15時)を継続。
- ③ 啓発活動: 劇・医療セミナー・衛生授業・地域指導者向けセミナーなどを継続。
- ④ 統計・調査・解析など: マラリア関係では、プロジェクト地域内の重症例発生頻度は減少傾向にあり、一定の達成度に至った。

(3) 医療廃棄物問題

「医療廃棄物委員会」は「病院環境委員会」と改名され、病院内の環境全般にも関心が及ぶようになった。a) 病棟内分別、b) 感染性物質の処理徹底、c) システム履行、d) 焼却施設・周囲の環境は維持されている。

(4) 教育

看護学生にケーススタディーを実施、クラスも数回担当。スタッフに、実地救急セミナー（医療機器使用方法・ACLS (Advanced Cardiac Life Support)）を開催した。

(5) ツアー受け入れ

NGO・個人の訪問を可能な限り受け入れた。

[2-2-2] 山内章子ワーカー

＜ワーカー 山内章子＞

派遣先：テゼ共同体

活動地域及び施設：

マイメンシン県

1. CCH (Community Center for the Handicapped)

2. CCH ムクタガチャ支部

ダッカ県

3. Noyanogor Church (教会内のデイケア)

4. MC (Missionary of Charity) Mission

(マザーテレサの施設。障がい児が住む)

5. Shanti Nir (韓国人主催のデイケア)

ディナジプール県

6. DLC (Dhanjuri Leprosy Center) 内ホステル (名称未定)

タンガイル県

7. Kailakuri Clinic

ラッシャヒ県

8. ブタハラ村、ボラル村のフィールドワーク (施設なし)

活動状況：

(1) CCH

① 訓練と評価の関係を教えているが、なかなか理解を得るのが難しい（評価なしに訓練をするため、どの子も同じ訓練になってしまう現状がある）。しかし、第一歩として、12月にスタッフのほうから、ムクタガチャで始めた評価表をCCHでも使用していきたいという意向が出た。評価用紙を2008年に提案し、勉強会もしてきたが、スタッフの同意が得られず保留にしていた。ムクタガチャで使用するうちに、便利さがわかり、フォームを作成することになった。

② 評価用紙を正確に使えることと、評価と訓練の関係を身につけるまでには、まだトレーニングが必要であるが、評価をしてから訓練、という考え方は理解できた。

③ 外国人手術チームの情報がスムーズに入り、手術のために子どもたちを病院に送ることができた。

④ 当事者グループも山内の手から離れ、スタッフが自立してプログラムを運営している。

- ⑤ ニュースレターや女性クラブの冊子の編集をリードした。
- ⑥ 女性クラブ（障がい女性たちのワークショップ）内で訓練を月に一度提供。当事者の一人が山内より訓練方法を学んでいる。

(2) CCH ムクタガチャ支部

前年度3月にオープン。当初、山内が訓練を行っていたが、人数が増加し、6月末よりCCHのスタッフも訓練に参加するようになった。現在はCCHの訓練スタッフ2名が週に一度訓練を提供している。

(3) Noyanogor Church

4月より訓練スタッフが新しくなった。3名が訓練の責任を持ち、6月と7月に集中基礎トレーニングを行った。現在は、簡単な関節運動は、指導しなくともできるようになっている。



トレーニングを受け、
リハビリを提供する
女性スタッフ

(4) MC Mission

11月より開始。SMSM Sistersのプログラム。山内は障がい児の部屋の訓練に関わる。同行スタッフの訓練及びMCのシスターへの訓練方法の提供を行った。それ以前は、子どもたちはまったく訓練経験がなかったが、一度の訓練で十分変化しうることをシスターたちがよく理解してくれ、協力してくれている。

(5) Shanti Nir

施設訪問はできないが、スタッフ1名に、SMSM Sistersで行ったトレーニングに参加してもらった。

(6) DLC 内ホステル（旧障がい児センター）

以前より、子どもの親たちが子どもをセンターに置き去りにしようとする傾向が見えてきたのと、同じ子どもたちしかフォローできていないという状況を問題視してきた。ダンジュリミッション内で宿泊のリハビリテーション施設を行うことを検討する必要があると、8月よりブラザー・フランク、PIME（イタリアの修道会）のフランチェスコ神父と相談を重ねた結果、リハビリテーション施設ではなく、障がい児たちに教育を受けさせるためのホステルとして施設を利用することとなった。2011年1月よりスタートした。

10月に2年近く教育してきたスタッフが解雇となり、実質現時点で訓練スタッフが1名となったが、1月より奨学金を予定しているディポックが非常勤勤務することとなり、2名がホステルに住む児らの訓練にあたる。

(7) Kailakuri Clinic

4月から12月にかけて6回訪問をした。7月より担当者がシュジット氏からミンハース氏に移り、スタッフ教育を一からやり直している。乾真理子ワーカーの派遣先となり、ケースの相談ができるようになった。

(8) ブタハラ村、ボラル村

テゼの奨学生だった青年（氏名：ロビンドロ）が始めたプログラム。7月ごろにスタートした。PIMEの神父さんのもと、テゼのブラザー・フランクのアドバイスを受けながら、

主に障がい者のグループミーティングを行っている。しかし、セラピーの必要があり、8月より彼に対し山内がマイメンシンにて月に数日トレーニングを始めた。現地訪問はまだしていない。

2011年2月よりスタッフがもう1名増え、山内から理学療法を学び始めた。

[2-2-3] 岩本直美ワーカー (看護師)

〈ワーカー 岩本直美〉

派遣先：テゼ共同体

(1) ラルシュコミュニティの法的立場の明確化と理事会の再編成

コミュニティの明確な法的立場を得ることは火急の課題であった。最終的にトラスト(財団法人に似た形態)が最善と判断し、理事会の了解を得てその準備を進めた。同じ頃、仕事の都合でダッカへ移ることになった理事より辞任の申し出があり、それを契機に理事全員の了承を得た上で、マイメンシンを基礎にした理事会の再編成を行った。1名の旧理事と4名の新理事によりトラスト捺印証書が申請受理され、ラルシュ連盟はこのトラスト理事会を、コミュニティの最初の合法的な理事会として承認した。

(2) 組織の運営管理

ラルシュ連盟が世界140のコミュニティの組織構成の再編成を実施し、それに従いマイメンシンはバスカ(ポーランド人女性)がコーディネーターの任に就いた。経験のあるプロ意識の高い女性で、彼女を通してマイメンシン・コミュニティは、ラルシュについて学び直すことになった。コミュニケーションの質が高まり、ラルシュへの帰属意識が高まった。年2度、2週間コミュニティに滞在し、コミュニティリーダーの識別や、コミュニティ全体の動きや状況を観ながら具体的な助言を下さった。アシスタントコーディネーターの必要も提案され、経験のあるアイルランド人アシスタントがその任に就いた。新理事たちとのコミュニケーションも、住居が近場であるため大変容易になった。

(3) アシスタントの養成

高卒レベルに達していないアシスタントたちは、継続して通信課程で学びをすすめた。アシスタントたちの成長に伴い、ダッカの主要団体が行う知的障がいに関する短期トレーニングに送った。

(4) コミュニティ生活

知的ハンディを持つメンバーたちも多くが思春期に達し、豊かな成長を見せると同時に様々な課題も示された。個々のニーズに応え、ケアするアシスタントをサポートするために、専門家の助言を多く頂いた。僅かながら家族の所在の分かっているメンバーについては、家族と定期的に連絡をとり、数日の帰省を試みる中で、家族の態度にも良い変化が見られるようになった。



コミュニティのメンバーと
外出する岩本ワーカー

(5) デイケア・ワークショップ

外部でのトレーニングや、専門家を招いての養成プログラムを重ねる中で、多少ではあるが活動に質がついてきたように思う。アシスタントの中で、関わりにより確かにハンディを持つメンバーたちに変化がおこることの気づきが生じてきた。

[2-2-4] 乾真理子短期ワーカー (医師)

派遣先：バングラデシュ タンガイル県 カイラクリ・クリニック

期間：2010年4月26日～7月25日および9月13日～12月11日

活動：カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト（カイラクリ・クリニック）で活動した。

外来および入院患者への治療に携わったほか、スタッフへの指導も行った。

[2-3] タンザニア

[2-3-1] 清水範子ワーカー (助産師・看護師)

＜ワーカー 清水範子＞

派遣先：タボラ大司教区保健事務所、イプリ保健センター

2010年度活動をタンザニア・タボラ大司教区保健部門とイプリ保健センターの2点から報告する。

(1) 保健部門 目標：保健部門機能強化と離任に向けた申し送り

① スーパービジョン：5回実施

- ・ 全医療施設 10箇所を3ヵ月毎に訪問し、人材と保健動向のデータベースを作成した。
- ・ 政府機関との連携強化のため、各県医務官と面談、医薬品や医療物品調達、バスケットファンドの申請などをした。
- ・ 同行者を招き、客観的意見・指摘・助言を頂いた。

1回目 Dr. George (ンダラ病院を毎年訪問するオランダ人医師)

2回目 タボラ州母子保健局長 (母子保健セミナー講師)

3回目 なし (個人情報データベース作成とIDカード配布)

4回目 タボラ州ウユイ県臨床検査技師官

5回目 JOCS タンザニアワーカー後任者への申し送り

② 母子保健セミナー

タボラ州母子保健局から3名を講師に招き、WHOが推奨している母子保健向上セミナー(事前試験、講義、デモンストレーション、臨床実習から構成)、全医療施設の助産スタッフから14名が参加、2010年4月19日から24日に実施した。

- ③ ID カード作成
- ④ 全医療施設とのヘルスボードミーティング（2回開催）
- ⑤ 2009 年年間報告書の作成と申し送り
- ⑥ 3年間で作成したデータ管理と申し送り

(2) イプリ保健センター

目標：母子保健向上と離任に向けた申し送り

① RCH クリニック

- ・ 妊婦健診、HIV カウンセリングと検査、HIV 陽性妊婦と出生児のフォローアップ
- ・ 予防接種、5歳未満児の体重測定
- ・ タボラ県保健局からの医薬品・ワクチン調達

② アウトリーチ

- ・ 妊婦健診、予防接種、5歳未満児体重測定
- ・ キッチンガーデンプログラムは、ムチチャの種を自家生産し、自家栽培できるようになるまで見届けた。

③ 後任助産師への申し送り

後任者は、政府雇用助産師で、タボラ州内県立病院の RCH クリニック 責任者の経歴もあり、人脈、経験、知識も十分備えられた方であった。受け持ちの妊婦たち、HIV 陽性妊婦たちと出生児のフォローなどの業務を申し送った。



健診に来た母子と
清水ワーカー

[2-3-2] 倉辻忠俊シニアワーカー

<シニアワーカー 倉辻忠俊>

派遣先：タボラ大司教区保健事務所、イプリ保健センター

タンザニア連合共和国タボラ大司教区保健医療部およびその傘下の病院、診療所など 10 の保健医療施設において、2011 年 1 月から 2 年間の予定で小児保健医療の協力を行う。

2011 年 1 月 26 日にタンザニア連合共和国に着任した。医師免許証、居住ビザは、2010 年 10～11 月に職務内容を決めるための出張の際に、既に手続きを済ませ入手していたため、入国および活動開始は非常にスムーズにいった。



チョーボ神父らと一緒に

1 月 28 日にダルエスサラーム大学スワヒリ語研究所でスワヒリ語の 4 週間インテンシブコースの手続きをと

り、1 月 31 日から 2 月 25 日までの講座がスタートした。最後の週には大学診療所で、医療の現場での会話研修を行った。

2 月 7 日に、タボラ大司教区イゴコ診療所の日本大使館草の根無償資金契約調印式のため、タボラ大司教区保健部門の保健事務所長・チョーボ神父が出席、倉辻が陪席した。

3 月前半はダルエスサラーム大学保健センターで実地研修を受けた。3 月 15 日にタボラ州に入り、臨床研修を 1 ヶ月行った後、タボラ大司教区の保健事務所で週 3 日傘下の 10 の保健医療施設の管理・運営および州保健局との協力関係の推進を、イプリ保健センターで週 3 日小児保健医療の改善強化を開始する。

[2-3-3] 宮尾陽一短期ワーカー (医師)

<短期ワーカー 宮尾陽一>

派遣先：タボラ大司教区 Ndala Hospital (ンダラ病院)

期間：2011 年 3 月 13 日～2011 年 4 月 14 日

活動：ンダラ病院のスタッフと協力して、約 20 件の手術（甲状腺腫瘍、その他体表の腫瘍、ヘルニア、陰嚢水腫、虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎手術など）を行った。それらの手術で、現地の医師に技術指導を行い、彼ら自身で手術ができるようになってきた。外来診察と病棟回診も現地の医師やオランダから来ている医師らと一緒にいき、その上で、今後の病院の在り方をめぐり、現状の問題点をカンファレンスで指摘し、方策を一緒に検討した。

[2-4] パキスタン

[2-4-1] 青木 盛ワーカー (医師)

<ワーカー 青木 盛>

派遣先：St. Raphael's Hospital (聖ラファエル病院)

活動第一期が終了し、2010 年 9 月に帰国した。

(1) St. Raphael's Hospital (聖ラファエル病院) での業務

① 外来

- ・ 月曜から土曜、1 日 3 時間程。その他時間外の診察。
- ・ 多い疾患は肺炎、気管支炎、下痢、皮膚病（疥癬など）、脳性麻痺など。
- ・ 昨年度に用意したがらがらなどのおもちゃは診察時有用であった。
- ・ 救急用の酸素ボンベ、アンビュバックを常備した。

② 小児の入院

- ・ 月数名（肺炎、下痢など）。

③ 新生児室

- ・ 1 日 3 回の回診と病的新生児の治療を行った。
- ・ 例年より外科的疾患が多かった。
- ・ 死亡原因は早産児（特に在胎 28 週未満）、超低出生体重児、新生児仮死、呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、敗血症、先天異常など。

	分娩数	経膈分娩	帝王切開	他院へ紹介した新生児数 (内、呼吸障害が原因)	院内死亡した新生児数	人工呼吸器を使用した新生児数
2009年	1632	809	823(50%)	18 (9)	40	24
2010年 (1~8月)	974	490	484(49%)	7 (1)	28	18

人工呼吸器を使用した新生児の転帰

	生存	死亡	他院紹介	
IMV	0	1	0	1
N-CPAP	12	2	0	14
N-CPAP + IMV	1	2	0	3
	13	5	0	24

IMV：間歇的強制換気 N-CPAP：経鼻持続陽圧換気

(2) プロジェクト費

- ① 人工呼吸器を使用している部屋に A/C を設置した(ファイサラバードの夏の気温は高く、特に人工呼吸器の置いてある部屋は大変暑く、新生児の体温管理が困難であった)。
- ② 病棟に冷蔵庫を購入した(入院患者のインスリン保存用、その他患者の食品保存のため)。
- ③ 車椅子を購入した。
- ④ 酸素ボンベの酸素流量計ゲージを購入した。



赤ちゃんを診察する青木ワーカー

(3) 奨学金

2010年度の申請なし。

(4) その他

6月2日~4日、「Evidence based practice in intra partum care」セミナーに参加。こうしたセミナーが2年毎にキリスト教病院の交流の一環として行われている。

今回はシアルコート市(ファイサラバードから車で5時間のインド国境近く)の Memorial Christian Hospital (MCH) で行われた(MCHはプロテスタント系の総合病院。約120年前に設立され広大な敷地を持っている。年間の分娩数が7,700件と膨大)。

参加人数は9人(MCHのスタッフ3人、MCHのヘルスワーカー2人、ラホール病院から助産師1人、聖ラファエル病院から3人)であった。

[2-5] カンボジア

[2-5-1] 諏訪恵子ワーカー

＜ワーカー 諏訪恵子＞

派遣先：RENACER, Walk with Women

2008年度より3年の任期で、カトリック礼拝会が中心となって設立したカンボジア政府登録NGO「RENACER, Walk with Women」（日本法人は「NPO法人 レナセール・女性とともに歩む会」）（RENACERはスペイン語で「生まれ変わる」の意）の女性シェルターへ派遣され、活動に参加した最終年度であった。そこで、諏訪が担ってきた女性シェルターのリーダー役を現地スタッフへ移譲すること、またこれまで構築してきた活動が現地スタッフによって継続・発展させていけるように導くことが今年度の大きな課題であった。そのために、シェルタースタッフの活動能力向上とチームワーク強化に向けた活動を実施した。

- ・ 外部のカンボジア人講師 Mr. Seoung Sothearwat（VBNK; An institute to serve facilitators of development に所属、臨床心理学を学び、心理カウンセリングも開業）によるソーシャルワーク及びコミュニケーションスキルアップトレーニング（2日間・5回/年）
- ・ 現地スタッフ主導によるシェルタースタッフ月例会議
- ・ シェルタースタッフ内部での勉強会や入所者ケース検討会の増加
- ・ 入所者支援活動計画書作成
- ・ ソーシャルワーク関連団体の会合でのレナセール活動紹介（プレゼンテーション）準備；発表内容の原稿作成とスライド作成

スタッフの能力向上に対する活動の一つひとつを通して、スタッフ一人ひとりがシェルター活動の状況改善や入所者支援について深く積極的に取り組むように成長し、カンボジア人スタッフによるチームワークも円滑になった。また、諏訪の離任後、「リーダー役」を引き継ぐスタッフの責任感と行動力が向上した。このようなスタッフ一人ひとりの成長には、8月に実施した原島理事による終了時評価も大きく関係した。原島理事がスタッフミーティングで諏訪の任期終了を公表した際、スタッフたちは動揺を見せた。しかし、その後、カンボジア人スタッフ主体による活動の困難点や問題点などを真剣に考えるようになり、諏訪への依存度が減り、スタッフの自主性が発揮されるようになった。更に、レナセール活動紹介の準備によって、スタッフ全体で「レナセール」と「女性シェルター活動」に対する理解を深めることができた。



現地スタッフと打ち合わせをする
諏訪ワーカー（写真中央）

一方、シェルター入所者は単身女性が少なく、乳幼児同伴者がほとんどで、特に妊娠女性の受け入れ要請が頻繁にあった。また、夫によるDV（Domestic Violence、家庭内暴力）を受けた女性が他団体に支援を求めていった際、婚姻証明書がないことや身体に暴力による傷害がないことを理由に入所を断られたため、レナセールで受け入れたケースもあった。女性シェルターが少ないカンボジアの状況に加えて、乳幼児同伴や妊娠中の女性

を受け入れるシェルターは更に少なく、また婚姻証明書なしで夫婦関係を持った女性が夫から被害を受け、助けを求めても支援対象の枠から外されるなどで、彼女たちがいかに社会の中で弱く小さくされているかという厳しい実状を知った。

諏訪のレナセール・カンボジア・女性シェルター活動参加を通して、JOCSはこれまで携わることの無かった重大で深刻なカンボジアの「女性と子ども」の実状を知り、レナセールの仲間と共に脆弱な立場に置かれた「女性と子ども」へ支援の手を差し伸べることができた。また、現地スタッフのシェルター活動に対する能力向上も図ることができたと考えられる。

レナセールの女性シェルターのニーズが今後益々高まることは違いない。そのためにも、カンボジア人スタッフチームによるシェルター活動の継続、クライアントに対する安全と安心の環境提供、自立支援のためのスタッフ能力向上が図られていくことを期待したい。

表1. 2010年度（2010年4月～2011年1月）のシェルター入所者の結果

在所総件数	32件（66人） うち、児同伴件数：23件（33人）
年齢層別在所者数	18歳以上：31人 15歳以上18歳未満：1人 6歳以上15歳未満：9人 3歳以上6歳未満：5人 3歳未満：20人
入所の主な理由	DV*、レイプ、性的暴力・搾取、貧困母子家庭、児童就労
妊婦の在所件数	9件
在所中の出産件数	4件

*DVには身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力などが含まれる

[2-6] 研修生・奨学金支援

2010年度に支援した奨学生は、インドネシア17名、ネパール19名、カンボジア2名、バングラデシュ5名、インド5名、ウガンダ27名、タンザニア15名の合計90名である。詳細は2010年度研修生一覧（18～23ページ）参照。

インドネシア

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Frits Lexi Meincker Motjai	男	22	学生	GKST	SAM Ratulangi University	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Mr. Mardianus Tado'u	男	24	薬局スタッフ	GKST	Samratulangi University, Manado	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Ms. Hermin Joloke'e	女	48	看護師	GKST	Community Health Center of Tentena	看護学	2008年4月 ~ 2010年10月
Mr. Feby Francis Parewa	男	35	看護師	GKST	Public Health Center(Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年6月
Ms. Alce Sumaila	女	29	看護師	GKST	Public Health Center(Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Ita Oktaviaty Pasambaka	女	36	看護師	GKST	Public Health Center(Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Linlje Tambayong	女	35	看護師	GKST	Public health Center(Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. MASTRIA Renias Mentiri	女	47	看護師	GKST	Public health Center(Tentena, Poso Regency)	看護学	2008年11月 ~ 2011年7月
Ms. Ferderika Amtiran	女	29	看護師	GKST	The Institute of Medical Science	看護学	2009年9月 ~ 2011年9月
Mr. Bertj Pelealu	男	33	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2007年7月 ~ 2010年6月
Ms. Marce Lendo	女	29	准看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Accademy	看護学	2007年7月 ~ 2010年7月
Ms. Citra Natalia Hia	女	24	学生	ICAHS Gunung Sitoli Hospital	North Sumatra University Medan	歯学	2005年9月 ~ 2010年8月
Mr. Jemmy P. Malahina	男	31	インターンシップスタッフ	ICAHS Lindimara Hospital	Radiodiagnostic and Radiotherapeutic technics Academy, Semarang, Jawa	レントゲン技術	2007年9月 ~ 2010年9月
Ms. Katrina Nono	女	31	薬局スタッフ	ICAHS Lindimara Hospital	Politeknik Kesehatan Kupang	薬学	2010年6月 ~ 2013年6月
Ms. Ike Pebriana	女	29	看護師	ICAHS Mardi Waloeja Hospital	Politeknik Kesehatan Malang, Malang, Jawa	看護学	2008年9月 ~ 2011年3月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Yetty Wahyu Kirmiawati	女	32	看護師	ICAHS Mardi Waloeja Hospital	Politeknik Kesehatan dr. Soepraoen Hospital	助産学	2008年9月 ～ 2011年9月
Ms. Yarniwati Hondro	女	31	看護師	ICAHS RSUD Lukas Hilisimaetano Hospital	Sumatra Utara University	看護学	2008年8月 ～ 2010年8月

ネパール

Mr. Jaganath Maharjan	男	39	理学療法士助手	Anandaban Hospital	Doon Paramedical College and Hospital	理学療法	2010年7月 ～ 2015年1月
Mr. Maheshwor Gosain	男	30	医学生	HDCS	Nepalgunj Medical College	医学	2007年2月 ～ 2011年8月
Dr Kaleb Budha	男	27	医師	HDCS Chaurjahari Hospital	Nepal Government Advanced SBA training	SBA トレーニン グ	2010年8月 ～ 2010年10月
Dr. Hari Krishna Dhakal	男	28	医師	HDCS Chaurjahari Hospital	Nepal Government Advanced SBA training	SBA トレーニン グ	2010年8月 ～ 2010年10月
Dr. Arpana BC	女	27	医師	HDCS Chaurjahari Hospital HDCS TEAM Hospital	Nepal Government Advanced SBA training	SBA トレーニン グ	2010年8月 ～ 2010年10月
Mr. Tilak Bahadur Kumar	男	31	地域保健・公衆衛生	HDCS Chaurjahari Hospital	Kaupal Health Academy, Nepalgunj Bank Nepal	保健学	2010年9月 ～ 2013年9月
Mr. David Thagunna	男	27	検査技師	HDCS TEAM Hospital	Bharatpur School of Health Sciences	検査技師	2009年11月 ～ 2012年11月
Mr. Amar Singh Bahat	男	23	検査技師助手	HDCS TEAM Hospital	Kalitiipur Institution of Health Science	放射線学	2010年9月 ～ 2012年9月
Ms. Kalpana Siwal	女	31	看護教師	Lalitpur Nursing Campus	Tribhuwan University, Institute of Medicine	看護学修士	2010年7月 ～ 2012年7月
Ms. Bhagabati Lohani	女	36	看護婦長	Patan Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2009年11月 ～ 2010年11月
Ms. Nimla Pant	女	36	看護婦長	Patan Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2009年11月 ～ 2010年11月
Ms. Ratna Kumari Maharjan	女	41	看護師	Patan Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学修士	2010年7月 ～ 2012年7月
Ms. Bimala Karti	女	41	准助産師	Tansen Nursing School	Tansen Nursing School	看護学	2010年9月 ～ 2013年9月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Monima Chaudhary	女	22	教師	Tikapur Christiya Mandali Church	Nepalgunj Nursing Campus	看護学	2009年12月 ~ 2012年12月
Mr. Ankit Raj Gurung	男	21	学生	UMN	Nepalgunj Medical College	医学	2009年8月 ~ 2013年2月
Ms. Savitri Shrestha	女	38	看護師	UMN Tansen Mission Hospital	B&B Medical Institute	看護学	2008年12月 ~ 2010年12月
Mr. Bikram Thapa Chhetri	男	36	理学療法士助手	UMN Tansen Mission Hospital	Dhulikhel Medical Institute, Katmandu Univ.	理学療法	2009年7月 ~ 2011年11月
Ms. Nirmala Sherestha	女	29	准看護師	UMN Tansen Mission Hospital	Tansen Nursing School	看護学	2009年9月 ~ 2011年9月
Ms. Sumitra Karki	女	30	看護師	UMN Tansen Mission Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2009年12月 ~ 2011年12月

カンボジア

Ms. Sokly Chan	女	24	医学生	Catholic Church Student Center	University of Health Science	医学	2003年12月 ~ 2010年12月
Mr. Kheang Heng	男	40	会計係・看護師	プレイカババス郡地域保健事務所	Build Bright University	ビジネス・マネージメント	2006年6月 ~ 2010年4月

バングラデシュ

Mr. James Zabiakthans Bawm	男	45	医師	CHC	Christian Medical College Hospital	新生児・小児医療	2010年1月 ~ 2010年7月
Mr. Mintu Nath	男	30	看護師	CHC	Christian Medical College Hospital	緊急性看護	2011年1月 ~ 2011年7月
Ms. Champa Das	女	19	無職	-	Christian Hospital Chandraghona	看護師	2010年1月 ~ 2013年1月
Ms. Mrakhayu Marma	女	37	看護師	CHC	Christian Medical College Hospital	新生児・小児看護	2010年1月 ~ 2010年7月
Ms. Sondhya Biswas	女	52	看護師	CHC	Christian Medical College Hospital	新生児・小児看護	2010年1月 ~ 2010年7月

インド

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Nisha Rachel Chandrasekaran	女	21	学生	Christian Fellowship Hospital	Christian College of Nursing, Ambilikkai, Tamil Nadu	看護学	2006年8月 ~ 2010年8月
Mr. Immanuel Paul Raj	男	22	学生	Christian Fellowship Hospital	St. Peter's Engineering College, Chennai	生物医療工学	2006年8月 ~ 2010年8月
Ms. Paripooranam Pounraj	女	19	無職	Christian Fellowship Hospital	Christian Fellowship Hospital	医療記録管理	2009年7月 ~ 2011年7月
Mr. David Livingstone J.	男	18	無職	Christian Fellowship Hospital	C.S.I. College of Dental Science and Research	歯学	2009年9月 ~ 2014年9月
Ms. Sathiya Priya Muniandi	女	18	無職	Christian Fellowship Hospital	Sarah Nursing College	看護学	2009年9月 ~ 2013年9月

ウガンダ

Ms. Nowerina Bira	女	22	看護ボランティア	Kinyamaseke Health Center III, South Rwenzori Diocese	Kagando School of Nursing and Midwifery	准看護師	2009年5月 ~ 2011年11月
Mr. Lubaale Robert Musasizi	男	25	検査技師助手	Lugazi Mission HC	Worldwide University College	HIV/AIDSカウンセリング・検査	2010年9月 ~ 2012年9月
Ms. Gladys Bwambare Kabugho	女	49	助産師	Nabugando Health Centre	Kagando School of Nursing and Midwifery	正看護師	2010年5月 ~ 2011年11月
Ms. Keronyai Pauline Picho	女	30	看護師	Reach Out	Aga Khan University Uganda	看護学	2009年8月 ~ 2012年2月
Mr. Olwa James Kamara	男	52	クリニカルサイナー	UPMB Amai Community Hospital	Kampala International University	臨床医学・地域保健	2008年4月 ~ 2011年4月
Ms. Uwimbabazi Sarah	女	24	准看護師	UPMB Bwindi Community Hospital	Kabale School of Comprehensive Nursing	正看護師	2010年5月 ~ 2011年11月
Mr. David Ngania Kitiyo	男	32	准看護師	UPMB Cure (Children's Hospital of Uganda)	Jinja School of Nursing and Midwifery	正看護師	2009年5月 ~ 2010年11月
Mr. Davis Makubuya	男	26	検査助手	UPMB Cure (Children's Hospital of Uganda)	Medical Laboratory Training School, Jinjja	検査技師	2009年10月 ~ 2011年10月
Ms. Scovia Kissa	女	26	看護師	UPMB Cure (Children's Hospital of Uganda)	Masaka School of Comprehensive Nursing	正看護師	2010年5月 ~ 2011年11月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Geoffrey Wuna Oromcan	男	44	看護師	UPMB Goli Health Centre	International Christian Medical Institute	健康管理学	2009年11月～2010年11月
Ms. Immaculate Prosperia Naggulu	女	38	看護教師	UPMB Kiwoko Hospital	International Health Science University	看護学	2009年9月～2012年9月
Mr. Masete Jacob Wepukhulu	男	27	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	正看護師	2010年5月～2011年11月
Mr. Nsumba S. Mark	男	26	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	正看護師	2010年5月～2011年11月
Ms. Ritah Nabasumba	女	26	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	正看護師	2010年5月～2011年11月
Ms. Jane Agamile Candiru	女	32	准看護師	UPMB Kuluva Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	正看護師	2009年5月～2010年11月
Mr. Moses Irebwat	男	26	助手	UPMB Kumi Hospital	Medical laboratory Training Schoo, Jinja	検査技師	2008年9月～2010年11月
Ms. Edith Catherine Kasembere	女	36	准助産師	UPMB Mengo School of Nursing	Mengo School of Nursing and Midwifery	正助産師	2010年5月～2011年11月
Mr. Patrick Ondgom	男	34	検査技師助手	UPMB P.A.G. Health Unit Lira	Mengo Hospital School of Medical Laboratory Technology	検査技師	2008年11月～2010年11月
Mr. Abraham Bwambal	男	31	地域青少年保健 ワーカー	UPMB South Rwenzori Diocese	Ernest Cook Ultrasound Research and Education Institute, Kampala	X線	2007年9月～2010年9月
Mr. Charles Magwano	男	37	看護助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kagando School of Nursing and Midwifery	准看護師	2007年11月～2010年11月
Mr. Patric Amooti Bikansobera	男	32	看護助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kagando School of Nursing and Midwifery	准看護師	2007年11月～2010年11月
Mr. Yonah Kinyonyi Munyaha	男	40	看護主任	UPMB South Rwenzori Diocese	Uganda Christian University, Mukono	看護学	2008年1月～2011年1月
Mr. Kabughu Phedrace	男	25	看護助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kagando School of Nursing and Midwifery	准看護師	2010年5月～2012年11月
Ms. Kighina Mbambu Alice	女	30	検査技師助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kasese Institute of Health Science	検査技師	2010年6月～2012年6月
Ms. Lodia Nziabake	女	32	准助産師	UPMB St. Paul's Health Centre IV	Jinja School of Nursing and Midwifery	正助産師	2009年11月～2010年11月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Gideon Bwambale	男	31	看護助手		Kagando School of Nursing and Midwifery	准看護師	2010年5月 ～ 2013年5月
Mr. Emmanuel Kato Nsereko	男	31	看護師		Medicare Health Professionals College	HIV/AIDSカウンセリング・検査	2010年6月 ～ 2010年12月

タンザニア

Ms. Bertha John Makoye	女	21	看護助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2010年9月 ～ 2013年9月
Ms. Hermenegilda David Peter	女	28	検査助手	AOT Ipuuli Health Centre	Nkinga School of Health Laboratory Sciences	検査技師	2008年9月 ～ 2010年9月
Sr. Shiny Francis Maridiyil	女	38	准医師補	AOT Ipuuli Health Centre	Tanzanian Training Centre for International Health	准医師	2008年9月 ～ 2010年9月
Mr. Francis Fortune Tegete	男	24	学生	AOT Ipuuli Health Centre	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2010年9月 ～ 2013年8月
Mr. Erasto Thomas Sauni	男	43	検査技師助手	AOT Kaliua Health Centre	Muhimbili University of Health and Allied Sciences	検査技師	2007年9月 ～ 2010年9月
Sr. M. Magreth Peter Nyamizi	女	28	看護助手	AOT Kipalapala Dispensary	Dareda Nursing Training School	看護師・助産師	2009年9月 ～ 2012年9月
Mr. Joseph Kitilu Lutozi	男	28	インターン	AOT Kipalapala Dispensary	Kibaha Clinical Officer's Training College	医師助手	2010年9月 ～ 2013年9月
Ms. Devotha Tiho Mayombya	女	21	看護助手	AOT Lububu Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2010年9月 ～ 2013年9月
Sr. Nyanzobe Christina Mathias	女	31	診療所受付・庶務	AOT Mwanzugi Dispensary	Kolandoto Nurse Midwife Training Centre	看護師・助産師	2009年9月 ～ 2012年9月
Mr. Mussa Ponda Mahela	男	29	学生	AOT Mwanzugi Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師	2010年6月 ～ 2011年8月
Mr. Peter Katinda Dotto	男	40	X線助手	AOT Ndala Hospital	Muhimbili University	X線	2007年9月 ～ 2010年8月
Ms. L.iberator Kabura	女	25	学生	AOT Ndala Hospital	Edgar Maranta School of Nursing	看護師	2009年9月 ～ 2012年8月
Sr. Christina Njendela Mapunda	女	29	学生・シスター	AOT Ndala Hospital	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2009年9月 ～ 2012年9月
Ms. Anna Makole	女	34	看護助手	AOT Ussongo Health Centre	Sumve Nurse Midwife Training College	看護師・助産師	2009年9月 ～ 2010年9月
Ms. Bertha Kasiga Msebya	女	24	看護助手	AOT Ussongo Health Centre	Sumve Nurse Midwife Training College	看護師・助産師	2009年9月 ～ 2010年9月

[2-7] 災害救援復興支援

[2-7-1] バングラデシュ・洪水被害

2010年、バングラデシュ南西部は慢性的な洪水被害を受けた。とくにシャトキラ県、ジョシヨール県、クルナ県にわたるコバダク川沿岸の地域では、約25村、6,000～7,000人の人々が甚大な被害を受けた。JOCSは、2010年11月に現地NGO団体Uttaranの支援要請に応じ、緊急支援金として1,000ドルを送金し、Uttaranは約235世帯に対して毛布の提供を行った。

[2-7-2] バングラデシュ・寒波救援

2010年から2011年にかけて、バングラデシュは寒波におそわれ、この冬、ここ5年間の最低気温を記録した。この寒波のため少なくとも50人の死亡が報告されている。暖かい衣類の値段は高騰し、貧しい人々、とくに子どもと高齢者が、寒さがもたらす病気に直面している。JOCSは、2011年1月に現地NGO団体SHED Boardの支援要請に応じ、緊急支援金として1,000ドルを送金し、SHED Boardでは5,000世帯に対して5,000枚の毛布の提供を行った。

[2-8] 協働プロジェクト (プロジェクト・りとり*)

(* Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

・BDP 学校保健教育プロジェクト (バングラデシュ)

2009年度にJOCSの活動の新たな柱として承認された「協働プロジェクト」の最初のプロジェクトとして、バングラデシュの学校教育NGO・BDP (Basic Development Partners) との協働事業「学校保健教育プロジェクト」が、今年度より開始された。BDPの運営する75の小学校の内、このプロジェクトで対象とするのは、ダッカ市ミルプール地区4校と、ガジプール県プーバイル地区の10校の計14校で、生徒数は約3,000人に上る。プロジェクトは5年計画で、初年度は、BDP内に学校保健教育担当職員を2名採用し、全生徒の体重と身長を計測、全教員へのプロジェクト説明会、保健担当教員(各校2～3名)第1回保健教育トレーニング(3日間)の実施、一部の学校での健康診断の試験的実施などを行った。

3. 国内諸活動

[3-1] 国内活動全般

(1) 会員増強のための取り組み

会員の継続率を高めること、新入会員を増加させることを課題として、以下の取り組みを行った。

① 会員継続のための働きかけ

2010年度より会費納入のお願いに、小島会長の名前の入った手紙を添えるようにした。

② 子ども向けのアピール方法を協議

小島会長の「ワンコインつもり募金」の提唱を受け、日本の子どもとアジア・アフリカの子どもたちを繋ぎ、どのように今後アピールを進めていくべきかが、国内活動委員会の主な議題となった。小島会長にも国内活動委員会に列席していただいた。2011年度も、引き続き具体的な方策を協議していく予定である。

③ JOCS グッズを広報ツールとして活用

50周年記念グッズとしてネパールにて作成したバッグとTシャツの販売を通してJOCSの活動を紹介するため、発送時にチラシやアンケートを同封した。

④ 「教会会員」の新規募集

関西地区事務局より、京都府下、兵庫県下、大阪府下の約1,000の教会に、冬期募金の趣意書に教会会員募集のチラシを添えて発送した。

⑤ クレジットカードでの入会・寄付

ホームページからのクレジットカード決済での入会・寄付が、導入後2年目となり、クレジットカードでの会費納入は51名（うち新規入会20名）と初年度の約3倍となった。

⑥ 50周年記念募金（冬期募金）趣意書での入会の呼びかけ

これまで寄付をくださっていた方を含め、62名が50周年記念募金を機会に会員となってくださった。

⑦ JOCS メールニュース

第87号から第105号まで発行、参加者は372名となった。

(2) ワーカー活動報告会

青木盛ワーカーがパキスタンでの第一期の活動を終えて帰国し、10月3日から12月25日までの間に計43回の報告会を行った。また、清水範子ワーカーがタンザニアでの3年間の活動を終えて帰国し、12月4日から2月27日までの間に計33回の報告会を行った。両ワーカー共に、学校・教会・保健医療施設などを訪問し、活動地の保健医療の状況や現地の人々の暮らしなどについて報告した。

(3) 地区 JOCS 活動 — 仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・播州・岡山・四国高知・(大曲)

2010年度中に開催された地区 JOCS イベントは以下のとおり。50周年記念イベントが各地で行われ、必要に応じて会長や総主事も出席し、委員、理事、事務局が参加して支援を行った。

2010年

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 4月10日 | 京都 JOCS チャリティウォークソン（京都鴨川河川敷）約30名参加。 |
| 4月11日 | 四国高知 JOCS 主催—50周年記念イベント ヴァイオリンコンサート |

- (日本基督教団高知教会) 約 200 名が来場。
- 5 月 22 日 芦屋 JOCS 主催 芦屋 JOCS30 周年・JOCS50 周年記念イベント
「コードリベット・コール」のコーラスと中村哲氏 (ペシヤワール会)
の講演 (芦屋ルナ・ホール)
約 1,000 名が来場。
- 6 月 5 日 神戸 JOCS 主催 50 周年記念イベント
パイプオルガンとトランペットコンサート (神戸栄光教会)
約 130 名が来場。
- 7 月 18 日 大曲 JOCS 主催 国際協力切手まつり開催 (大曲ルーテル同胞教会)
約 30 名が来場。
- 7 月 19 日 仙台 JOCS 仙台地球フェスタに出展 (仙台国際センター)
- 7 月 23 日 京都 JOCS 50 周年記念イベント
チャリティコンサート・アンサンブルアカデミー京都
(京都コンサートホール・大ホール) 約 1,200 名が来場。
- 9 月 25 日 仙台 JOCS 50 周年記念イベント リトリート「ブラザー・フランクを
迎えて」 約 70 名参加。
- 9 月 25～26 日 四国高知 JOCS 高知スタンプショウに出店 (高知イオン)
- 10 月 31 日 足利 JOCS のつどい 青木ワーカー報告会 (足利勤労青少年ホーム)
約 20 名が来場。
- 11 月 6 日 大阪 JOCS 主催 50 周年記念イベント
「いのちを見つめて～寄り添って生きる」
自殺防止センター西原由記子氏講演会 (島之内教会) 約 40 名が来場。
- 11 月 20 日 神戸 JOCS のつどい 青木ワーカー報告会 (日本基督教団兵庫教会)
約 30 名が来場。
- 11 月 28 日 四国高知 JOCS のつどい 青木ワーカー報告会 (日本基督教団高知教会)
約 40 名が来場。
- 11 月 28 日 仙台 JOCS 市民活動カラフルフェスタ出店
(仙台市市民活動サポートセンター)
- 12 月 11 日 足利 JOCS 50 周年記念イベント 足利 YMCA 共催
第 30 回市民クリスマス (足利市民会館) 約 300 名が来場。
- 12 月 18 日 町田 JOCS クリスマス食事会
- 12 月 25 日 京都 JOCS のつどい 青木ワーカー・清水ワーカー報告会
(京都市国際交流会館) 約 50 名参加。
- 2011 年
- 1 月 30 日 足利 JOCS のつどい 清水ワーカー報告会 (足利勤労青少年ホーム)
約 20 名が来場。
- 2 月 13 日 芦屋 JOCS のつどい 清水ワーカー報告会 (芦屋岩園教会)
約 80 名が来場。

3月13日 関西 JOCS 50周年記念シンポジウム (ACTA 西宮)
約90名が来場。

(4) 関西 JOCS 2010 JOCS 創立 50周年記念シンポジウム

日時：2011年3月13日(日)

場所：ACTA 西宮東館6階

テーマ：何が彼らをそうさせたのか・・・

～海外、国内で医療活動をする3名の生き方から学ぶ～

講師：榎戸健次郎氏 (ネパール派遣短期ワーカー)

宮尾陽一氏 (タンザニア派遣短期ワーカー)

東岡牧氏 (笹島診療所看護師)

参加者：約90名

内容：各講師に、ネパールの地方での保健医療改善活動、タンザニアでの外科手術を通じての医療協力、日雇い労働者と向き合う看護というテーマでお話いただき、その後ディスカッションや質疑応答が行われた。

(5) 国際協力切手まつり

国際交流切手まつり in 山口

会場：アスピラート 2月25日 9:30～ 13:00～

26日 9:30～ 13:00～

防府教会 26日 16:30～

アスピラート 27日 9:30～ 13:00～

プログラム：清水ワーカーのお話、切手紙芝居、JOCS 紹介 DVD、切手整理の時間、その他、チャイサービス、写真展など

[3-2] ワーカー育成プログラム

(1) 海外保健医療協力セミナー

日程：2010年6月19日(土)12時～20日(日)14時

場所：東京スポーツ文化館 (東京都江東区夢の島)

テーマ：国際協力に役だつ！ファシリテーションを学ぼう

講師：土井直彦氏 (臨床発達心理士、学会認定カウンセラー、学校心理士、牧師、高校教員)

チャプレン：ジェフリー・メンセンディーク氏 (仙台青年学生センター)

スタッフ：川口恭子 (海外担当主事)、小池宏美・高橋淳子 (担当)

参加費：社会人 12,000円、学生 10,000円 (JOCS 会員は 1,000円割引)

参加者：11名 (女性8名、男性3名)

【学生5名 (医学部2、看護学部2、その他1)、看護師3名、医師1名、カ

ウンセラー1名、青年海外協力隊候補生1名】会員6名、会員以外5名

- 内容：
- ① アイスブレイキング（ネームトス）
 - ② ファシリテーションを学ぶ（グループワークと講義）
 - ③ タンザニアでの活動報告（宮尾陽一短期ワーカー）
 - ④ 南インド・スタディツアーの紹介
 - ⑤ 祈りの時間

(2) 海外保健医療勉強会

今年度は勉強会を3回開催した。うち2回は帰国中のワーカーを講師として、1回はフィールドでの一日勉強会として横浜寿地区で開催した。勉強の機会の提供のみならず、参加者同士の交流の場ともなり、また、参加者にJOCSとのつながりを持ち続けてもらう場ともなった。

① 第1回

日 時：2010年10月22日（金）18：30～20：30

場 所：日本キリスト教会館4階A会議室

題 名：パキスタン・新生児医療の現場から

講 師：青木盛ワーカー

参加者：合計19名（女性19名）

【看護師6名、看護学生5名、介護福祉士2名、医師・助産師・薬剤師、その他学生各1名、その他2名】

内 容：パキスタンの新生児医療の現状について、日本など諸外国との数値を比較しながら説明した。そのなかで、新生児に特に多い病気や死因などについても触れた。また、パキスタンの聖ラファエル病院での活動の様子や、現地で医療活動を行う際に直面する課題について、写真を交えて話した。

② 第2回

日 時：2011年1月21日（金）18：30～20：30

場 所：日本キリスト教会館6階A会議室

題 名：みんなで生きる タンザニア編 ～3年間の母子保健活動から考えたこと

講 師：清水範子ワーカー

参加者：合計15名（男性4名、女性11名）

【NGO職員6名、看護学生2名、医師2名、助産師1名、その他2名、不明2名】、

内 容：活動場所であるタボラ大司教区保健部門の概要や組織形態、保健施設内の外来患者内訳や医療者内訳などのデータを説明しながら、自身のタンザニアでの母子保健活動や実施したプロジェクトについて報告し、質疑応答が行われた。

③ 第3回

フィールド勉強会

日 時：2011年2月20日（日）10時～17時

場 所：日本基督教団神奈川教区寿地区センター 他

参加者：合計14名（女性9名、男性5名）

【看護師 4 名、医師 2 名、助産師 2 名、大学教員 1 名、学生 1 名、救命士 1 名、その他 3 名】

内 容：寿地区センターと同じビルにある「なか伝道所」の礼拝に出席後、同伝道所の渡辺英俊牧師に寿地区の歴史や概要、活動内容、地区センターの取り組みについてお話しいただいた。その後、訪問介護ステーションを訪問し担当者に話を伺ったり、AA（アルコール依存症者の自助グループ）の方の話を伺ったりした。最後に分かち合いの時をもち、参加者間で学びを共有した。

(3) 南インド・スタディツアー

期間：2010 年 8 月 27 日（金）～9 月 5 日（日）（10 日間）

訪問地：インド共和国タミル・ナードゥ州オダンチャトラム
クリスチャン・フェローシップ病院

参加者：11 名（医師 2 名、看護師 5 名、看護学生 1 名、薬学生 1 名、環境情報学生 1 名、その他 1 名）

引率：川口恭子（海外担当主事）、高橋淳子（事務局職員）

内容：今年度は、南インド・クリスチャン・フェローシップ病院を訪問した。同病院の外来や病棟を見学したほか、同病院付属の看護学校の授業見学、モバイルクリニックやボーイズホーム、エイズホスピス、ガンジーグラム、近隣の他病院の見学などを行った。現地の保健医療の実情を知り、話し合いを通じて国際協力に関する考えを深めた。また、インドの街やヒンズー教寺院、キリスト教教会などを見学し、現地と日本の生活を比較することで多くの気づきを得た。

[3-3] 東日本大震災被災者支援

3 月 11 日の東日本大震災発災後、ネパール短期ワーカー・榎戸健次郎医師が、仙台 JOCS の活動拠点である日本基督教団仙台青年学生センター・エマオに 3 月 16 日に入り、支援活動を開始した。エマオには「東北教区被災者支援センター」が開設され、JOCS の被災者支援は仙台 JOCS 並びに被災者支援センターに協力する形で始まり、JOCS 会員の医師や看護ボランティアも活動に参加した。

初期段階での活動は、榎戸ワーカーを中心とする、仙台市内若林区の避難所となった小中学校での被災者の診療などで、3 月 24 日まで続けられた。避難所は徐々に縮小し、かつ地元医師会や他県からの医療チームが診療を担うようになったため、他地域でのニーズ調査を行うこととなった。

榎戸医師が岩手県の被災地で地元教会などの協力を得て情報収集を行ったところ、釜石地区での在宅被災者の訪問診療などが必要と判断した。その結果、第 2 段階は、同地区へ既に医療チームを派遣していた淀川キリスト教病院（大阪）に加わる形で、3 月 28 日から活動が始まった。これらの活動は、日本基督教団奥羽教区の新生釜石教会をはじめ、後方支援拠点として花巻教会の支援を受けて展開された。なお、継続的な活動を念頭に、日本キリスト者医科連盟（JCMA）との連携も開始した。

[3-4] 広報

(1) みんなで生きる

- ・ 2010年度は7回発行。 8,400部/月
A4版 16または20ページで編集し、会員・寄付者・一般へ送付した。
- ・ 隔月発行とし、10・11月号と12・1月号の間に子ども号を発行した。
- ・ 今年度も読者アンケートの内容を委員会で検討し、紙面づくりの参考とした。
- ・ 「子ども号」の表・裏表紙は、今年度もカラー印刷とした。中も、4, 5, 8, 9ページをカラー印刷とし、その他は2色刷りとした。特集は、「バングラデシュとネパールから届いた絵」で、岩本直美ワーカーと細井さおりワーカーの活動地の子ども・若者たちに絵を描いていただいた。また、全ワーカーが「ワーカーからの手紙」を執筆した。
- ・ 12・1月号の表紙は、クリスマスの絵柄のノクシカタ（バングラデシュの刺繍）の風合いを活かすため、昨年度に引き続きカラー印刷とした。
- ・ 「みんなで生きる」の特集は、
 - 4・5月号 「JOCS切手の日」たくさんの手紙が送られてきました
 - 6・7月号 第49回JOCS社員総会報告・募金報告
 - 8・9月号 「みんなで生きる」400号、JOCS創立50周年コラボ企画
梅山猛医師に聞く ー50年前の海外医療協力から学ぶことー
 - 10・11月号 JOCS創立50周年記念企画 元ワーカーからのメッセージ
 - 12・1月号 ワーカーからのクリスマスメッセージ
 - 2・3月号 南インド・スタディツアー報告

とした。毎月の掲載としては、小島会長の巻頭言、恭子ディディの視点から、JOCSと私（理事・監事）、切手部通信、Kids JOCS、ときのことば、総主事デスクから、であった。「教えてドクター！感染症のはなし」は、4・5月号で「重症急性呼吸器症候群（SARS コロナウイルス感染症）」を、10・11月号で「マラリア」を取り上げた。

(2) ホームページ

2009年4月から始めた、ホームページ上からカードや銀行振込による募金・入会・会費継続などの支払いが出来るシステムも、徐々に利用者が増加している。

(3) 視聴覚資料（DVD、写真パネル、切手紙芝居）

50周年記念として、JOCSの奨学生事業とワーカー派遣事業を紹介する2本のビデオがひとつに収録されたDVDを作成し、ホームページからも鑑賞できるようになった。また、他の視聴覚資料と合わせて無料で貸出を行うこととした。また、50周年記念の企画として、ボランティアテックが中心となり、会報「みんなで生きる」の表紙を写真パネルにした。

現在、JOCSにおける貸出可能な視聴覚資料は下記のとおりである。

<DVD/VHS>

- ・ 50周年記念DVD「カシ ナマ ジュパン」／「心をひらいて」（DVDのみ）
- ・ アジアの呼び声に応じて
- ・ エイズと向き合う

- ・クメールの人々とともに
- ・使用済み切手でアジアに医療協力を
- ・日本のお友だちへ
- ・はるかなるネパールの村へ
- ・オカルドウンガ診療所にて
- ・世界の屋根のヒゲ・ドクター
- ・ノーレンの目が見えた
- ・ヒマラヤの結核キャラバン

<写真パネル>

- ・ワーカーの活動地
- ・「みんなで生きる」表紙

<ホームページからダウンロード可能な資料>

- ・使用済み切手運動紙芝居

(4) 出版物・マスコミへの掲載（付録参照）

- ・ 2010年4月15日発行：リバイバル・ジャパン
- ・ 2010年6月3日発行：小学三年生 7月号
- ・ 2010年6月3日発行：小学四年生 7月号
- ・ 2010年6月15日発行：NCC 教育部ネットワークニュース NO. 30
- ・ 2010年8月13日発行：静岡新聞
- ・ 2010年8月15日発行：徳島新聞
- ・ 2010年8月18日発行：河北新報
- ・ 2010年8月20日発行：高知新聞
- ・ 2010年8月22日発行：河北新報
- ・ 2010年9月15日発行：キリスト教学校教育 636号
- ・ 2010年10月1日発行：キリスト教保育連盟会報（11月号、12月号、1月号も）
- ・ 2010年10月9日発行：キリスト新聞
- ・ 2010年10月10日発行：クリスチャン新聞
- ・ 2011年1月10日発行：NCC 教育部ネットワークニュース NO. 32
- ・ 2011年2月1日発行：文化連情報 2011年2月号
- ・ 2011年2月19日発行：教団新報 4717号

(5) 広報改革タスク

メンバー：中畠裕一（リーダー）、宇山 進、新井ななえ

大江 浩、森田真実子、山下諭子、山中 信（職員）

会員が JOCS に求めることを知り、ニーズに応えるための広報の体制をつくることを目的とし、広報改革タスクにて今年度は以下の取り組みを行った。

- ① 過去2年以内に JOCS を退会された方、また過去7年以内に入会された方を対象として、会員アンケートを行った。1,210通を発送し、550通の回答を得た。
- ② これまでの広報活動を振り返り、アンケートの集計・分析を元に 2011年度の支援者

とのコミュニケーション方法を協議した。

JICA のアドバイザー派遣制度を利用し、会員アンケート作成・分析に関して、マーケティング・リサーチ会社である株式会社インデックス・アイの近藤光雄氏（代表取締役）よりアドバイスをいただいた。

[3-5] 募金

今年度の募金協力件数は以下のとおり。心からの感謝をもって報告する。

	依頼数	協力数	協力率	寄付金総額
2010 年度				
（夏期募金）	21,104 件	2,712 件	13.5%	約 1,845 万円
（年末募金）	19,419 件	6,612 件	34.0%	約 6,528 万円
（その他の募金）				約 1,329 万円
総計				約 9,702 万円

今年度も夏期募金は「みんなで生きる」6・7月号に募金趣意書・払込用紙を封入する方法をとった。また年末募金は50周年記念募金として、「50周年記念募金タスク」を設置し、タスクの中で議論した内容を趣意書に盛り込んだ。紙面をフルカラーにして通常の1.5倍に増やし、JOCSと共に歩んだ方々からの50周年のお祝いのメッセージを掲載した。また会員募集の項目も加えたため、この機会に寄付者から会員となってくださる方が62名あった。

多くの方々からお心のこもったご協力をいただいた。

[3-6] 使用済み切手運動

今年度の切手受託累計と本会計繰入額は、昨年度と比較し以下の通りである。

	2009 年度	2010 年度
使用済み切手受託件数	19,197 件	18,407 件
使用済み切手受託量	12,930Kg	13,057Kg
本会計繰入額	1,600 万円	1,100 万円

訂正) 2009 年度事業報告書の切手の受託量が、キロボックスの 7.5 キロ換算ではなく、9.5 キロで換算されていたため、実際よりも多く記載されていました。正しい数字は上記のとおりとなります。お詫びと共に、ここに訂正いたします。

2010 年度の特徴は、毎年切手受託が減り続けているにも関わらず、換金需要が増えており、結果的に換金額は減少傾向にならずに保っていたことである。本会計繰入額の減少は、前年度からの繰越金の減少による。換金の需要はまだ見込めるので、更に切手受託を増や

すため、宣伝に努めたい。

切手タスク：山中 信職員（リーダー）、渋谷理香職員、濱野佐知子職員（9月まで）、森田真実子職員

以下の日程で、切手キャラバンを行い、JOCS および切手運動の紹介に努めた。

・ 日時・場所

- 2010年 8/18（水）19:00～桐生市 日本キリスト教団桐生東部教会
- 8/19（木）14:00～足利市 勤労青少年ホーム（足利の学童保育所の子どもたち）
18:00～足利市 勤労青少年ホーム（足利 JOCS）
- 8/20（金）19:00～会津若松市 日本キリスト教団若松栄町教会
- 8/21（土）14:00～仙台市 仙台市市民活動サポートセンター
- 8/22（日）11:30～仙台市 日本キリスト教会黒松教会礼拝終了後 礼拝出席者

・ プログラム

イベント	常設
牧師からのあいさつ、司会による JOCS の紹介 ビデオ上映、使用済み切手収集の話（山中信職員） JOCS の解説と過去のワーカー体験（川口恭子海外担当主事）（22日は無し） チャイのサービス。来場者に希望で、切手整理体験を行った。	■ 写真パネル展示 ■ 使用済み切手受付 ■ 手工芸品販売 ■ 民族衣装試着

使用済み切手は各地での協力があり、以下のとおり集まった。

桐生 13 キロ、足利 11 キロ、会津若松 8 キロ 仙台 37 キロ 合計：69 キロ

その他、募金や足利市の地元有線テレビの取材などがあった。

[3-7] 関西事務局バザー

5月8日（土）に第16回関西事務局バザーを大阪聖パウロ教会にて開催した。今年度は新しい試みとして、バザーのチラシを両面カラー印刷し、集客を図った。今年度もボランティアの方々のご協力で物品販売のほか、福引などにも力を入れ、当日は約370名の来場者があり、使用済み切手も14キロ集まった。純利益は123万円程となった。

[3-8] 講師派遣プログラム

JOCSの活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。今年度は以下の諸団体（21カ所）に派遣した。

女子学院中学校、女子学院高等学校、パナソニック松愛会 東京首都圏支部総会、白百合中学校「いのち」の特別授業、神戸松蔭中学高等学校、桃山学院大学国際教養学部、日経新聞販売所、神戸友の会 幼児生活団6歳児クラス、関西学院大学神学部、明治学院東村山高校、明治学院東村山中学校、ルーテル同胞教団 北東北教区「みちのく聖会」、カトリック小金井教会「ヨハネ祭」、日本基督教団 豊沢教会、明治学院高等学校、頌栄短期大学「社

会事業奨励日礼拝」、恵泉女学園中学・高等学校、同仁美登里幼稚園、土浦めぐみ教会マナ愛児園、横浜英和小学校、横浜 YMCA 専門学校作業療法科

[3-9] 事務局見学受入

使用済み切手がどのように活用されているのか、JOCS はアジア・アフリカでどのような活動を行っているのかなどを実際に事務局に来て学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れを行っている。今年度は以下の諸団体（東京：8 団体 計 56 名、関西：6 団体 28 名）を受け入れた。

<東京事務局>

青山学院初等部（東京）、仙台市立将監中学校（宮城）、常滑市立鬼崎中学校（愛知）、豊田市立朝日中学校（愛知）、中央大学経済学部（東京）、香蘭女学校バザー委員（東京）、茨城県立土浦第一高校（茨城）、東京文理学院（東京）

<関西事務局>

大阪西ロータリー（2 回）、同志社中学校（京都）、大津家庭裁判所（滋賀）、梅花中学校（大阪）、香芝切手ボランティア（奈良）

[3-10] 50 周年記念事業

創立 50 周年を迎え、今後の活動につながるプログラムとして、今年度は、以下の 50 周年事業プログラムを実施した。

(1) 感謝礼拝

2010 年 9 月 23 日（木・祝）、東京はニコラバレ修道院（四ッ谷）、関西では大阪聖パウロ教会を会場として開催。バングラデシュ・テゼ共同体のブラザー・フランクを奨励者として東京会場にお迎えし、東京会場から大阪会場に映像を繋いだ同時礼拝を執り行った。両会場を合わせ、およそ 300 名の来場があった。

(2) リトリート：

10 月 9 日（土）に池袋聖公会を会場として開催。感謝礼拝に引き続き、ブラザー・フランクを再びお招きして、黙想の間に、歌と祈りを捧げるときを参加者と共に持った。およそ 90 名の参加があった。

(3) JOCS 紹介 DVD

1 枚の DVD にインドネシアの奨学生、バングラデシュのワーカーの活動地、それぞれ英語版、日本語版を含めたもの 50 セットが 11 月末に完成した。販売はせず、会員増強のために用いる。

「カシ ナマ ジュパン」 インドネシアの奨学生を紹介

「心をひらいて」 バングラデシュの知的・身体的障がい者と共に生きる若者たちと、彼らを支える JOCS ワーカーを紹介

監督：大宮直明氏

制作協力：CVP

インドネシア語監修：八田早恵子氏

ベンガル語監修：志賀 圭氏

(4) 出版

ネパールの細井さおりワーカーのエピソードがもととなった子ども向け絵本『1 ルピーの贈りもの』を 1,000 冊出版した。また、絵本のイラストの入ったクリアファイルも 1,000 部作成した。絵本は 2011 年 1 月に完売した。

(5) 「みんなで生きる」表紙展

「みんなで生きる」に使用された写真をパネルにし、50 周年感謝記念感謝礼拝の茶話会会場において写真展を開催した。今後も各地で展示ができるよう、企画をする。

(6) テーマソング

和田浩氏の作詞作曲による「みんなで生きるために」の CD を 600 枚製作し、4 月の社員総会で出席者に配付した。また、地区 JOCS のイベントと感謝記念礼拝・リトリートにおいて、希望者に配布した。

(7) 50 周年記念グッズ

細井護氏によるデザインで T シャツ 450 枚とバッグ 650 個をネパールにて製作した。各地のイベントやワーカー報告会、ホームページなどで販売をした。

(8) 地区 JOCS 企画によるイベント

各地区 JOCS が、特色を活かした 50 周年記念イベントを開催した。詳細は[3-1] (3) の地区 JOCS 活動 (25~27 ページ) を参照。

[3-1 1] ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」「カンボジア市民フォーラム」「開発教育協会」に加入している。関西 NGO 協議会では理事として運営に携わった。カンボジア市民フォーラムにおいては、世話人として 2 ヶ月に 1 回のセミナー開催に協力し、JANNET においては、各種報告会、勉強会への参加、ニュースレター執筆などの協力を行った。

また、国際協力を主たる事業とする公益法人の情報交換ネットワークに参加した。このネットワークは、JANIC 正会員のワーキンググループ「公益法人 NGO 連絡会」に発展することとなった。

4. 運営会議

[4-1] 第 49 回社員定期総会

2010 年 4 月 29 日 (木・祝日) 午後 1 時より、東京都新宿区の日本キリスト教会館にて、54 名の社員の出席と 323 通の委任状を以って開催した。議事に先立ち、土浦めぐみ教会の

清野勝男子牧師より「良き業を始められた方」と題して奨励をいただいた。議事は2009年度事業報告及び決算報告の承認、新公益社団法人への移行認定申請、定款変更案の停止条件付き決議、役員・役職者改選結果の発表及び承認、2010年度事業計画及び予算案の承認がなされた。

議案審議の終了後、ネパールでの第二期活動を終えた植戸健次郎シニアワーカーと、タンザニアに短期派遣され帰国した宮尾陽一短期ワーカーより帰国挨拶と活動報告がなされた。続けて、50周年記念事業について植松功氏より報告がなされた。

[4-2] 臨時社員総会

2010年9月18日(土)午後3時より、東京都新宿区の日本キリスト教会館にて、34名の社員の出席と332通の委任状をもって開催した。公益社団法人への移行登記を停止条件とする定款の変更案修正案と、「役員の報酬等及び費用に関する規程」「会員規程」「寄付金取扱規程」の承認、予算表記修正の承認がなされた。議案審議の終了後、バングラデシュから一時帰国中の山内章子ワーカーより挨拶がなされた。

[4-3] 理事会

今年度の定例理事会及び常任理事会は以下の日程で開催された。

2010年	4月29日	常任理事会(東京事務局)
	5月29日	常任理事会(東京事務局)
	5月29日	定例理事会(日本キリスト教会館)
	6月26日	常任理事会(東京事務局)
	7月24日	常任理事会(東京事務局)
	8月21日	臨時理事会(大阪ガーデンパレスホテル)
	9月18日	常任理事会(東京事務局)
	9月18日	定例理事会(早稲田奉仕園)
	10月23日	常任理事会(東京事務局)
	11月20日	常任理事会(東京事務局)
	12月18日	常任理事会(東京事務局)
	12月18日	定例理事会(早稲田奉仕園)
2011年	1月22日	常任理事会(東京事務局)
	2月19日	常任理事会(東京事務局)
	3月26日	常任理事会(東京事務局)
	3月26日	定例理事会(日本キリスト教会館)

尚、今年度の理事ならびに監事は次のとおり。(敬称略)

小島莊明(会長) 畑野研太郎(常務理事) 大江 浩(常任理事・総主事)

川口恭子（常任理事・海外担当主事）		島田 恒（常任理事）
高梨愛子（常任理事）	中 篤裕一（常任理事）	仁科晴弘（常任理事）
榛木恵子（常任理事）		
宇山 進（理事）	影山隆之（理事）	柏 明史（理事）
佐藤 光（理事）	白石仁美（理事）	杉山恭史（理事）
高橋 一（理事）	武田伸二（理事）	長尾真理（理事）
宮崎 雅（理事）	柳澤理子（理事）	
小澤英輔（監事）	辻本嘉助（監事）	

[4 - 4] 公益社団法人への移行手続き

2008年12月に施行された新しい公益法人制度による公益社団法人への移行を目指して、公益認定申請手続きを行い、2011年3月に公益認定を受けた。

2010年

- 4月29日 社員定期総会で新公益社団法人への移行認定申請と、定款変更案の停止条件付決議承認。
- 5月21日 内閣府公益認定等委員会事務局（以下「内閣府」という）窓口相談。定款変更案について修正指示。臨時理事会、社員臨時総会を開催するよう指導あり。
- 5月29日 定例理事会で上記の指摘を反映した定款変更案の修正を承認。
- 6月26日 定款変更案の修正に伴い、会員規程を改定する必要性が出てきたため、常任理事会で改定案を作成。
- 7月1日 会員規程案、役員報酬規程案、寄付金取扱規程案を内閣府へ提出。
- 8月6日 内閣府より、会員規程案、役員報酬規程案、寄付金取扱規程案の修正箇所が指摘される。
- 8月21日 臨時理事会開催。定款変更案修正案、上記を反映した会員規程案、役員報酬規程案、寄付金取扱規程案を承認。加えて、2010年予算表記の修正を承認。臨時社員総会開催を決議。
- 9月18日 臨時社員総会開催。定款変更案修正案、会員規程案、役員報酬規程案、寄付金取扱規程案を承認。加えて、2010年予算表記の修正を承認。
- 10月22日 内閣府へ公益認定申請（電子申請）。
- 12月2日 内閣府で第1回ヒアリング。補足説明・修正資料を作成し、提出するよう指導を受ける。

2011年

- 1月5日 内閣府へ補足説明・修正資料を提出。
- 2月4日 内閣府で第2回ヒアリング。公益目的保有財産について修正指示。
- 2月4日～22日 内閣府の指導により、6回にわたり、修正申請を行う。
- 3月4日 公益認定等委員会より内閣総理大臣に対し、当法人が公益認定の基準に適合

すると認めるとの答申が出される。

3月23日 内閣総理大臣より認定書が交付される。

[4-5] 委員会

<関西地区活動委員会>

委員長：船戸正久

委員：大谷 透、彼谷廣子、加輪上敏彦、酒井照子、島田 恒、高谷泰市、畑野めぐみ、
船戸正久、和田 浩

列席者：中村満子（神戸 JOCS）

- (1) 委員会は2ヵ月に一度関西事務局で、2010年度は5月17日、7月5日、9月6日、11月1日、12月6日、2011年1月17日、3月7日に開催した。委員会の出席者は、大谷透、彼谷廣子、加輪上敏彦、酒井照子、島田恒、高谷泰市、畑野めぐみ、船戸正久、和田浩の各氏と関西在住の法人理事（宇山進、榛木恵子）、監事（辻本嘉助）、列席者として神戸 JOCS の中村満子氏と事務局の渋江理香、久家郁子、中村愛を加え、平均出席人数は12名であった。
- (2) 毎回委員会では、関西基金運用状況の確認、各地区 JOCS の活動報告、募金報告、バザー、関西 JOCS の集いに関する協議・反省などを行なった。
- (3) 特に9月23日に開催した JOCS50 周年のイベントについて多くの時間を割き、協議し、準備にあたった。当日は80名以上の方がご参加下さり、共に豊かな時間を持つことができた。和田委員が作詞作曲した、JOCS のテーマソング「みんなで生きるために」を共に歌うことができたことは喜びであった。
- (4) 恒例の関西 JOCS バザーは2010年5月8日（土）に大阪聖パウロ教会を借用して開催、昨年同様ボランティアの方々のおかげで、入場者は約370名。純益1,235,887円の内10万円を次回バザーの準備金とし、残りを JOCS へ寄付した。
- (5) 関西 JOCS 2010 は、今年度 JOCS が創立50周年を迎えたことを記念してシンポジウム「何が彼らをそうさせたのか～海外・国内で医療活動をする3名の生き方から学ぶ～」を開催した。3月13日（日）午後2時～4時半、兵庫県西宮北口にある ACTA で、3名のパネリスト（楢戸健次郎ネパール派遣短期ワーカー、宮尾陽一タンザニア派遣短期ワーカー、東岡牧看護師）にそれぞれの活動を語ってもらった。

<奨学金委員会>

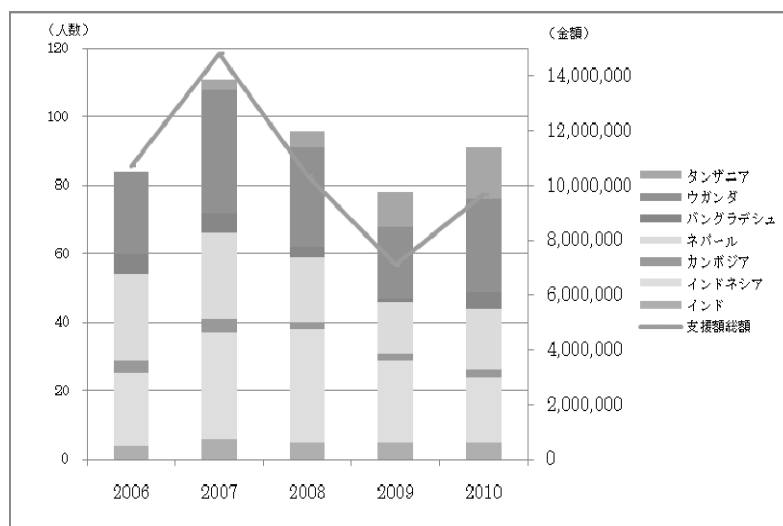
委員長：柳澤理子

委員：小宅泰郎、加輪上敏彦、長尾真理、細谷たき子、宮城航一、宮崎 雅

(1) 2010年度奨学金選考結果

対象国	2010年度後期		2011年度前期		支給決定者合計
	希望者数	支給決定者数	希望者数	支給決定者数	
インド	0	0	4	2	2
インドネシア	5	3	2	0	3
カンボジア	-	-	-	-	-
ネパール	16	7	9	3	10
バングラデシュ	1	1	3	1	2
ウガンダ	25	5	29	4	9
タンザニア	9	4	4	2	6
合計	56	20	51	12	32

(2) 過去5年間の奨学生数と給付額の推移



(3) その他

2010年度予算1,000万円のうち7,943,130円は、前年度までに採用された奨学生への継続支給(研修が複数年に渡るため)であった。従って、2010年度の新規決定額は2,056,870円であった。

2006年度頃から引き続き、応募数が承認数を超過している状態である。今年度はウガンダからの申請が特に増加している。この背景には、JOCS奨学金の存在が知られるようになったこと、フォローアップの際に現地の関連団体と直接協議したことにより、奨学金制度についての理解が進んだことなどがあると考えられる。一方、以前に比べ、インドネシアからの申請数が減少してきた。過去の奨学金支援を通じて、JOCSの奨学金制度が一定の効果を上げ、病院スタッフの中にすでに元JOCS奨学生が多くなっていることも、その理由の一つかと考えられる。

2009年度以前にすでに承認された奨学生から、支給内容変更要請が2件あったので、

その都度委員会内で協議し、変更を認めるか否かについて話し合った。

今年度はフォローアップを行うことができなかったが、来年度に向けてのフォローアップ実施計画を立て、委員の予定を調整する（またはフォローアップに行ける委員がいなければ、事務局スタッフが担当する）こととなった。

<広報委員会>

委員長：宇山 進

委員：柏木牧子、北嶋陽子（8月まで）、須賀真弓、西谷誠子

2ヵ月に1回のペースで6回のミーティングを持った。

(1) 出版物による広報活動

① 「みんなで生きる」

今年度は7回発行（うち子ども号1回）。 8,400部/月

A4版16または20ページで編集し、会員・寄付者・一般へ送付した。詳細は[3-4] 広報(1)「みんなで生きる」(30ページ)参照。

② 「フォーラム」

2010年4月29日に第26号（全110ページ）を発行し、社員総会時に出席者（社員会員・一般会員）に配布した。内容は、JOCS海外保健医療勉強会報告（中村正聡氏、佐藤光氏）、ワーカー活動報告（楢戸健次郎ワーカー、宮川眞一ワーカー）、短期ワーカー報告（中谷三保子氏、宮尾陽一氏）であった。

③ 「募金趣意書」

夏期募金趣意書は、「みんなで生きる」6・7月号にA4版表裏2色刷りの趣意書を挟み込み、会員の方々に送付した。また、冬期募金趣意書は、広報委員も意見を述べたが主に50周年記念募金タスクによって6頁立てカラー印刷で作成され、9月の記念礼拝から配布が開始され、11月に一斉発送された。

④ ボランティアテックの活動

今年度は3回、ミーティングを持った（5、7、10月）。50周年記念の活動として、「みんなで生きる」表紙展を開催し、絵本『1ルピーの贈りもの』とクリアファイルを作成した。

⑤ ホームページの活動

- ・ 切手部のツイッターを開始した。
- ・ 新たにワーカーブログのコーナーを作った。
- ・ 「みんなで生きる」のバックナンバーのリンクバナーをトップページに貼り付け、わかりやすいようにした。

<国内活動委員会>

委員長：川崎 豊

委員：新井ななえ、有田憲一郎、小野志乃、高柳昌久、仁科晴弘、羽山直人

委員会の開催回数を5回に増やし、熱心に諸課題について議論を重ねた。

主に、日本在住の子どもたちと JOCS の関係する現地の子どもたちとを繋ぎ、それぞれの違いを確認してもらうためにどのようにアピールしたらいいのかを協議した。今後 JOCS の活動を知ってもらう方策を考えて行きたい。また、これによって JOCS の活動が活性化されることを望んでいる。

<財務委員会>

委員長：佐藤 光

委員：柏 明史、中寫裕一

今年度の委員会開催と主な協議、決定事項は以下のとおりであった。

第1回 2010年7月10日

- ・大口寄付に関するご案内について
- ・軽井沢土地売却時の資金の扱いについて
- ・本年度財務委員会協議内容検討

第2回 2010年11月13日

- ・軽井沢土地売却に伴う諸件について（売却収入の積み先、発生する諸費用の財源）
- ・今年度決算見込み及び来年度予算案（第一案）

第3回 2011年2月12日

- ・今年度決算見込み及び来年度予算案（第二案）
- ・今後10年間の財政見通し

概要

予算、決算という財務委員会の通常の協議に加え、軽井沢土地売却に伴う件についても協議した。加えて、本年度も昨年度と同様、公益認定に伴う財務的な課題についても協議した。また、第49回社員総会で決定した特定資産の変更、統合、新設を実行した。昨年度同様、単年度の収支が赤字になり、新設した海外保健医療協力資金から取り崩すという厳しい財政状況にある。収支改善について課題をあげて委員会で継続して議論することを決定し、今後10年間の財政シミュレーションを作成して検討したが、十分な議論には至らず、来年度の課題となった。

<ワーカー育成委員会>

委員長：大友 宣

委員：田代順子、土井直彦、野崎威功真、山 嘉信、山本眞美子

今年度は委員会を3回開催した。海外保健医療セミナーについては2010年度実施までのプログラムの反省をもとに、2011年度の企画を大幅に見なおした。インドへのスタディツアーを実施した。3回海外保健医療勉強会を開催し、そのうち1回は2009年度と同様に横浜寿地区でのフィールド勉強会とした。詳細は、[3-2] ワーカー育成プログラム（27～29ページ）を参照。今後も、参加者の中から海外保健医療協力の芽が育ち、ワーカーが立てられることを願って止まない。

<ワーカー派遣委員会>

委員長：植松 功

委員：石井光子、石田 武、内坂 徹、大友 宣、小宅泰郎

今年度は、委員会は開催されなかった。また、ワーカー志願者の面接も行われなかった。

[4-6] 評価

(1) 活動終了前レビュー

次のワーカーに関し、活動終了前レビューを行った。

- ◆ 山内章子ワーカー 第一期 2010年4月
- ◆ 諏訪恵子ワーカー 第二期 2010年8月
- ◆ 清水範子ワーカー 第一期 2010年9月
- ◆ 細井さおりワーカー 第一期 2011年2月

(2) ワーカー自記式アンケート

派遣後1年目2年目の終了時に行う自記式アンケートを以下のワーカーに行い、回答を常任理事会で検討した。

- ◆ 宮川眞一ワーカー 1年目(第二期) 2010年8月
- ◆ 諏訪恵子ワーカー 2年目(第二期) 2010年4月
- ◆ 岩本直美ワーカー 2年目(第四期) 2010年5月
- ◆ 細井さおりワーカー 2年目(第一期) 2010年8月

(3) 「今後5年間の方向性」モニタリング

2005年度に定めた「今後5年間(2006年～2010年)の方向性」の具体的活動について振り返りを行い、理事会で共有した。

「JOCSの活動の今後5年間の焦点」及び「弱くされた人と共に生きることを喜びとするワーカー」については、アクションプランで計画した成果を概ね達成できたと評価できる。

しかし、「平和を実現するものとしてのJOCS」については、計画した成果が達成されたと評価できず、5年間で達成できる成果ではなかったのではないかと考えられる。「平和を実現するもの」は、「5年間の焦点」と「弱くされた人と共に生きるワーカー」と同じレベルにあるものではなく、「5年間の焦点」と「弱くされた人と共に生きるワーカー」を実現することによって将来的に実現されることを目指す「上位目標」であると考え、アクションプランを作成すべきであった。

新しい「5年間の方向性」については、ステートメント前半は現在のものを継続するが、5年間の焦点の対象「女性と子ども、障がい者、少数民族、HIV感染者」及び「弱くされた人と共に生きるワーカー」の内容について2011年度に見直しを行い、新しい方向性に反映させることとし、その作業を行うためのタスクを設置した。

5. 事務局

＜総主事 大江 浩＞

2010年度の主な事務局の動きは下記のとおりである。

第1に、5カ国へ延べ11名のワーカー（シニア・短期含む）の派遣にあたり、常に活動地域の情勢に関する情報収集に努め、ワーカーがより良い活動を行えるよう、できる限りの力を尽くした。下半期は、青木・清水両ワーカーの報告会のために連絡調整と対応を行った。

第2に、奨学金支援は、7カ国90名であった。50周年DVDは、その意味と大切さを今一度確認する大事な契機となった。奨学金申請数は、拡大傾向が続いているため、より効率的な事務処理が進められるよう改善を行っている。

第3に、2010年度から最初の協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）として、バングラデシュでの学校保健教育を開始した。対象は、14校約3,000人の生徒である。現地協力団体であるBDP（※）と適時コンタクトを取り、現地訪問を行いながら進めている。

※BDP=Basic Development Partners

第4に、50周年関連事業は、記念感謝礼拝・リトリート、地区JOCSのイベント、50周年記念グッズの販売やDVDの製作など、多岐に渡ったが、多くの方々のご奉仕ご協力により、進めることができた。上記のイベントの参加者総数は約3,300人に上る。その約9割は、全国各地のJOCSの催しに参加された方々であった。深くお礼を申し上げたい。

第5に、公益社団法人への移行については、臨時総会（8月）、臨時社員総会（9月）を経て、10月22日に内閣府に申請を行った。第1回内閣府ヒアリング（12月2日）以降、担当事務局とのやりとりが続いたが、幸い3月下旬に認定を受けることができた。準備開始から数年にわたり多大な労力を要したが、その努力が報われ幸いである。

第6に、「50周年募金タスク」（常任理事会のもとに設置）の意向を受けて、50周年募金趣意書（冬期募金の時期に実施）を作成し、会員拡大と募金増強を図った。下半期は、より良い広報活動の展開のために「広報改革タスク」を設置し、第1段階として会員対象（退会された方々を含む）のアンケートと実態調査を実施し、分析と方針策定を行った。

第7に、このたび、軽井沢の土地及び建物をキリスト教主義の学校法人へ売却した。

第8に、東京事務局の濱野佐知子の退職（9月末）に伴い、10月から大久保奈緒が入局した。関西事務局では、中村愛（臨時職員）の退職（12月末）に伴い、河野智恵（臨時職員）が12月より入局した。また山中信と森田真実子が、JICAの組織マネジメント研修（広報戦略）に参加し、「広報改革タスク」への流れを作った。「新しい広報」への動きに期待したい。

第9に、JOCSは、いくつかの他団体とのネットワークに加盟している。その中でも、今年度は「カンボジア市民フォーラム」の世話人や運営サポート、「全国障害分野NGO連絡会」（JANNET）への協力、また関西NGO協議会の理事として活動した。

最後に、事務局にとって、通常業務以外に、50周年関連の諸事業や公益法人改革への対応など、様々な事柄が同時並行で動く慌しい1年となりましたが、無事終了することが出

来たことは主の恵みです。皆様のご理解ご協力、主イエスのご加護と導きに心から感謝いたします。

JOCS 総主事 大江 浩

6. 一般会員・社員会員の現状報告

2011年3月31日現在

社員会員	451名
一般会員	4,286名
合計	4,737名

2010年度中の社員会員、一般会員の異動

1. 社員会員

(1) 新しく社員会員となられた方	22名
(2) 社員会員を辞し、一般会員となられた方	12名
(3) 退会された方	8名

2. 一般会員

(1) 新たに入会された方	147名
(2) 退会された方	224名